

言語と

第19号

March 2025

Language and Culture

文化

研究論文

- 「のる」の意味分析 趙 鴻・徐 庶・八巻 マリ子 1
- 日本語における「～度」を伴う漢語の
用い方及び中国語訳の特徴の考察 袁 梓鑫 13
- 「切」を伴う中日二字漢字同形語の意味的相違の考察
——「切断」を中心に 李 琦 27
- 日本語の「受領」と中国語の“受領”における
意味や用い方の相違の考察 崔 子銘 41

研究ノート

- 芥川龍之介の「江南游記」における
「秦淮」と「明孝陵」のイメージ像 李 依婷 51

書 評

- 曹炳生・劉佳編著『張謇癸卯東遊日記校注』を読む 王 昊天 60

言語と文化

第 19 号

2025 年 3 月

目 次

研究論文

「のる」の意味分析 ----- 趙 鴻・徐 庶・八巻 マリ子 1

日本語における「～度」を伴う漢語の
使い方及び中国語訳の特徴の考察 ----- 袁 梓鑫 13

「切」を伴う中日二字漢字同形語の意味的相違の考察
——「切断」を中心に ----- 李 琦 27

日本語の「受領」と中国語の“受領”における
意味や用い方の相違の考察 ----- 崔 子銘 41

研究ノート

芥川龍之介の「江南游記」における
「秦淮」と「明孝陵」のイメージ像 ----- 李 依婷 51

書 評

曹炳生・劉佳編著『張謇癸卯東遊日記校注』を読む ----- 王 昊天 60

編集後記 ----- 65

CONTENTS

Articles

Semantic analysis of “Noru” ----- ZHAO Hong • XU Siu • MARIKO Yamaki 1

A study on the use of Chinese characters
and the characteristics of Chinese translations in Japanese ----- YUAN Zixin 13

A Study on the Semantic Differences of Sino-Japanese
Two-Character Homographs with “setsu”(Focusing on “setsudan”) ----- LI Qi 27

A Study on the Differences in Meaning and Usage of
"受領" in Japanese and "受领" in Chinese ----- CUI Ziming 41

Research Note

The image of "Qinhuai" and "Ming Xiaoling Mausoleum"
in Ryunosuke Akutagawa's "Jiangnan Yuuki" ----- LI Yiting 51

Book Review

A Study of “Zhang Jian's Gui Mao Eastern Journey Diary with Annotations”
Edited by Cao Bingsheng and Liu Jia ----- WANG Haotian 60

Editor's postscript ----- 65

「のる」の意味分析

趙 鴻・徐 庶・八巻 マリ子

要 旨

本稿は日本語動詞「のる」の意味分析である。

本稿では、「のる」を多義語 1 であるにとらえ、14 の意味に分けて分析し、多義構造を示した。靱山洋介（2001）の分析手順に沿い、まずコーパスと国語辞典及び多義語学習辞典を参考に、「のる」の複数の語義をまとめた。次に、プロトタイプの語義の認定方法に従い、「物の上に上がる」という語義を「のる」のプロトタイプとした。最後に、プロトタイプの語義と周辺の語義の拡張関係を明らかにし、それを動機づけるのはメタファーやメトニミーであるという仮説を示した。

キーワード：多義語、プロトタイプ、メタファー、メトニミー

0. はじめに

本稿の目的は日本語動詞「のる」の意味を分析し、その多義構造を明らかにすることである。本稿では、「のる」を多義語 1 であるにとらえ、14 の意味に分けて分析し、多義構造を示す。

本稿の構成は以下のとおりである。1 節では先行研究を取り上げ、その問題点を指摘する。2 節では意味分析をする際に援用する概念について述べる。3 節では別義を示し、例文を挙げて多義語である「のる」の意味分析を行う。4 節では別義を再掲し、別義間の関係を図によって示す。5 節では本稿のまとめを行う。6 節では今後の課題を述べる。

1. 先行研究

本節では「のる」の先行研究として、辞書類と森山（2012）をとりあげ、その記述内容を検討する。

『日本語基本動詞用法辞典』（1978）では「のる」を「乗る」と「載る」に分けて、合わせて次の 8 の意味が挙げられている。

「乗る」①ある物や人のひざ・肩などの上に上がる。②乗り物の中に入る、または、

その上に体を置く。③動きなどにうまく調和し、共に動く。④相手の話などに耳を傾ける。⑤相手の言動につられて動く。⑥化粧品・塗料などがよくくっついて広がる。

「載る」①物が別の物の上に置かれている。または、積まれている。②新聞・雑誌・本などにニュース・文章などが出る。しかし、これらの意味記述は別義としてとりあげられる基準がわかりにくく、別義間の関係も明示されていない。

森山（2012）では認知言語学の理論を用いて 104 の多義動詞を検討し、それぞれの意味ネットワークをまとめている。この著書は日本語学習者向けの多義語学習辞典であり、具体的な研究プロセスかが示されていないが、「のる」の意味ネットワークが簡潔に提示され、語義認定や拡張経路の分析に対して参考になる。また、「物の上に上がる」という語義が意味拡張の起点、即ちカテゴリーの中心に位置し、そこから数多くの語義が派生しているとしている。本稿もその考えを認め、考察を進めながらより詳しく説明していきたい。

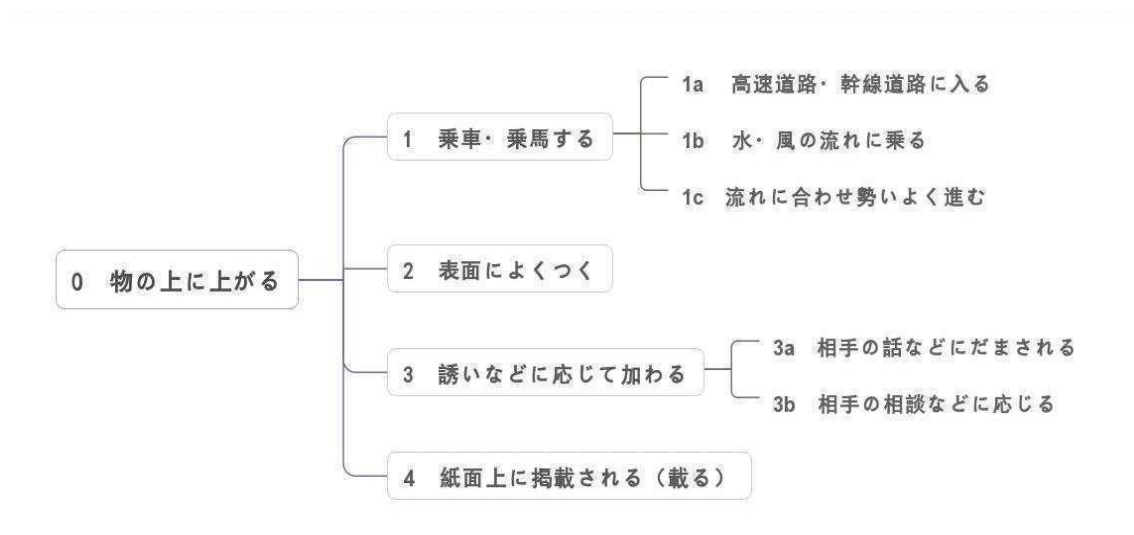


図1「のる」の意味ネットワーク（森山 2012 を参考に趙鴻が作成）

2. 援用する概念について

本稿では「のる」を多義語として分析するが、分析する際にレトリックの概念であるメタファー（隠喩）、「メトニミー（換喩）」を用いる。

榊山（2001）では次のように定義している。「メタファー」とは、二つの事物・概念の「類似性」に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用い、他方の事物・概念を表す比喻である。この場合、よくわかっている対象を「起点領域」、理解したい対象を「目標領域」という。一方「メトニミー」とは、二つの事物の外界における「隣

接性」(空間・時間)及び概念上の「関連性」(原因と結果の関係など)に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用い、他方の事物・概念を表す比喩である。

3. 分析

「のる」は、「乗る」や「載る」と漢字表記される。本稿では靱山(1994)に倣い、漢字表記の違いは必ずしも意味の違いには結びつかないと考え⁽²⁾、「乗る」と「載る」を区別せずに考察する。

本節では、「のる」を14の別義に分け考察する。まず、分析結果であるそれぞれの別義を示した上で、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(以下 BCCWJ)を対象に国立国語研究所と Lago 言語研究所が開発した検索システム「NINJAL-LWP for BCCWJ」(以下 NLB)を利用して例文を収集し、説明していく。

別義1: <移動しない><物の上に><あがる>⁽³⁾

(1) あわててベッドの上に乗り、壁に耳を付けた。⁽⁴⁾

(伊島りすと著『ジュリエット』, 2001, 913)

(2) 20 分も過ぎると今度は 2 人とも話に夢中になってバイクの上に乗ったまま喋りっぱなしです。

(スマッシュ, 2004, スポーツ)

(3) 私が膝に乗って甘えると顔つきが変わってなんとも言えず甘い父親の顔になります。

(高橋三恵子著『フラッシュバック』, 2001, 367)

上の例は、物の上に上がることを意味する。この場合、動作の主体は主に自分の意志で移動できる人や動物になる。本稿では 別義1 を基本義であると考え。また(2)では移動手段の「バイク」が出現したが、この場合は「バイク」の移動性を強調しているのではなく、「バイク」が人の座り所になることに焦点を置いている。よって(2)は「乗り物を使って移動する」という意味に該当しないと考えられる。本稿では別義1 をプロトタイプの意味と考える。

別義2: <移動しない><物の上に><置かれる>

(4) 膝の上に大きな紙袋が載っていた。

(ウィリアム・G. タプリー著; 島田三蔵訳『呪われたブルー・エラー』, 1986, 933)

(5) 栓をぬいたままのワインがテーブルに載っている。

(カロリーヌ・リンク著; 平野卿子訳『ビヨンド・サイレンス』, 1998, 943)

(6) 蘇芳はマントから手を差し出し、掌に載っていた鋼球を飛ばした。

(太田忠司著『まぼろし曲馬団』, 2005, 913)

(7) その手に奇妙な鉄パイプのようなものが載っている。

(鳴海章著『バディソウル』, 2005, 913)

別義 1 から別義 2 への意味拡張は「焦点化」と「メタファー」で解釈できると考えられる。別義 1 は焦点化を通じて、「N1 (人・動物) が N2 (もの) の上に位置する」という構成部分を認知の重心として際立たせる。更に人や動物が他の物の上に位置を取る様子が、移動能力を持たないものが他の物の上に位置する様子に類似することから、メタファーのプロセスを経て別義 2 に辿り着くのが想像できる。したがって別義 2 を理解する前提となる別義 1 をプロトタイプの語義になる可能性が最も高く、森山 (2012) の考えと一致している。

別義 3 : <表面に><よく付く>

(8) 夏場より秋口の鱧のほうが完全に脂が乗って、ぐっとおいしくなります。

(柿澤津八百語り; 平松洋子聞き書き『旬の味、だしの味』, 2004, 596)

(9) 表皮にはボールペンのインクが乗りにくいので、ナイフなどの背の角で擦って汚れと甘皮をほんの少し削り落とします。

(松本修身著『作ろう・飛ばそう竹とんぼ』, 2005, 759)

物が何かの中や上にくっつき、簡単に分離できない状態を表している。この場合のガ格名詞は「脂」のような体の内部から生み出し、体表に迫るもの及び「インク」のような外部から物の表面に付くものが見られる。

別義 2・3 とともに N1 が N2 に付着する様子が見られる。しかし別義 2 と異なり、別義 3 の N1 (インク・脂など) はすでに N2 (物) とうまく融合し、簡単に分離できない状態となっている。また、インクが表皮になじむ様子や脂が体の内部から皮膚に滲み出る様子は、いずれも物の表面から観察できる。この場合、認識の焦点は別義 2 の「物が物の上に位置する」全体像から「物と物の接触面」、即ち N2 の表面に移り別義 3 の意味拡張が果たせる。

別義 4 : <抽象物><物の上に><付着して><可視化される>

(10) 朝もまた、そうした記事が新聞に載っています。

(笹沢左保著『明日はわが身』, 1981, 914)

(11) 書き方の教科書に、山本有三の詩が載っていた。

(松本キミ子著『三原色のフィールドノート』, 1995, 724)

(12) リストに載っていた警視庁関係者は、あなた一人だけでした。

(姉小路祐著『汚職捜査』, 2000)

別義 4 は文字情報が紙上に記載されることを表している。情報は元々抽象的で、物理的に触れることのできない概念だが、文字や絵の形で可視化される。文字による抽象的情報が紙に書かれている様子は、実体を持つ物が他の物の上に位置するよう見え、互いに外見上の類似性が存在する。したがって、別義 4 は別義 2 からメタファーによって拡張したものである。

別義 5 : <重量><何かに><かかる>

(13) ボードがフラつくのは、重心が前足に乗っていない証拠だ。

(『スノーボードクリニック』, 1999, 784)

(14) 自然とボールに体重が乗るはずです。(スマッシュ, 2002, スポーツ)

重量が何かの上にかかることを表している。この場合、人や物が他の物の上に位置し、結果として自らの重量をその物にかけることになる。別義 5 は実際別義 2 の必然的な結果になる。両者の間には原因と結果の関連、即ち概念上の関連性が存在する。

別義 5 は別義 2 からメトニミーによって拡張したものである。

別義 6 : <物の上に><あがって><移動する>

(15) 統帥は黙って出迎えの車に乗った。

(木村裕主著『ムッソリーニを逮捕せよ』, 1989, 237)

(16) 馬に乗って故郷の村に向かった。(木村尚三郎著『歴史を旅する』, 1992, 204)

(17) 駐車場からエレベーターに乗り、最上階の六階で降りた。

(小池真理子著『恋』, 1995, 913)

上の例のように、「乗る」は「移動手段」を表す名詞と共起することが多い。動作の主体、つまりガ格と共起する名詞は主に「人」を表すものである。この場合の「移動手段」は「車」「船」など、現代社会で広く利用されている交通機関だけではなく「馬」「牛」のような調教された動物もそれに属する。また、垂直的な移動をなす「エレベーター」が出る例文も見られる。

別義 1 が「<何かの物に上がってそこに止まる>」の「車」や「船」に上がったあと移動する>ことを意味する。つまり、人が乗り物に上がることで移動することが目的ではなく、それを利用してさらに遠くへ移動することが目的だと想像しやすい。乗り物に上がり、それから移動するという動作が連続して行われ、時間上の隣接性を持っている。したがって別義 6 は別義 1 から隣接性に基づくメトニミーによって拡張したものである。

別義 7 : <道に><沿って><移動する>

(18) 車はようやく街の外に出て、それから高速道路に乗り、まっすぐ北に向かった。
(村上春樹著『神の子どもたちはみな踊る』,2000,913)

(19) 中央へ延びるレールに乗って、「鹿児島中央駅前」から北東の方向へ走り始めた。
(小川裕夫編著『日本全国路面電車の旅』,2005,686)

上の例では、「乗る」と共起する二格名詞は車や列車が走る「道」を提示している。この場合動作の主体は「乗り物」或いは「乗り物の中の人」だと想像しやすいが、コミュニケーションの効率のため、省略されることもある。この意味に関し、森山は「高速道路・幹線道路に入る」という表現を用い、乗り物が高速道路などに入る瞬間を強調し、範囲が更に狭められている。しかし、実際にコーパスの例文を考察すると、乗り物はある方向に沿って一定の距離を走ることを表す場合が多く、「入る」瞬間より「移動する」のを強調すると考えるほうが妥当だと判断する。「高速道路」というコロケーションの出現頻度も高い。

別義 6 と別義 7 には「乗り物の移動」という共通点が見られる。しかし、別義 7 では乗り物が走る道が二格に現れる。この場合、話し手の視点が乗り物の移動経路に移り、別義 6 から別義 7 への拡張は焦点化によって成立する。また、「高速道路」の出現頻度が高い原因として、一般の道より高い位置にあることが考えられる。

別義 8 : <気体・液体によって><運ばれ><移動する>

(20) 子どもたちの歓声が風に乗って届く。
(森谷明子著『れんげ野原のまんなかで』,2005,913)

(21) 鷺は峡谷の気流に乗って、翼を広げた。(野性時代,2005,文学/芸術)

(22) 川の流に乗った時だけ筏は動くが、瀬場ではほとんど静止状態である。
(野田知佑著『ハーモニカとカヌー』,2002,290)

(23) 黒潮に乗ってひたむきに泳いできたカツオは、ただひたむきに引くばかりである。
(立松和平作;山本祐司絵『虹色の魚』,2001)

上の例は気体や液体の力によって移動することを表している。この場合の二格名詞は主に「風」「黒潮」など、自然界の気体・液体に相当する。動作の主体は形のない音や人が搭載される船などを除き、鳥と魚といった動物も見当たる。「何かによって移動する」という点では、別義2「乗り物を使って移動する」と似ているが、乗り物と異なり、気体と液体は人の制御がなくても自然に動ける。むしろ、人・動物や物は気体・液体運動の趨勢に従って移動するしかできない。音のような意志の持たない物は単純に気体・液体の運動に巻き込まれ、どこかに運ばれると想像しやすい。一方、人・動物は意志を持つ生物で自ら気体・液体の運動に入り込み、その力を利用することもできる。

別義6では、「車」や「船」など乗り物を使って移動するが、別義8では気体や液体の力によって移動する。別義8は別義6からメタファーによって拡張したものである。

別義9：＜流れに合わせ＞＜勢いよく＞＜進む＞

(24) 仕事が軌道に乗った二年目からは、家族もアメリカに呼び、いっしょに生活をするようになることができました。（花山勝友著『大欲のすすめ』,1992,188）

(25) 流れに乗りきれなかった芸人は消えていくことになります。

（北野大著『されど、たけしの兄です』,1998,289）

(26) 勢いに乗って六局目、七局目と連勝、奇跡の逆転劇となったのである。

（藤沢秀行著『藤沢秀行』,1987,795）

物事の流れ・動きに応じて勢いよく進む。別義9は（勢いなど）は抽象的な流れ・動きであるが、「物事がいい方向へ発展する」という概念上の移動方向も見られる。

（人・事業）もその流れに応じ、いい結果に向かって前進している。つまり、別義9における抽象的な移動は、別義8に見られる具体的な移動に類似している。したがって、別義9は別義8からメタファーによって拡張したものである。

別義10：＜物事の流れ・動きに応じて＞＜いい気になる＞

(27) 「坂田に勝った自分が高川に負ける訳がない」と調子に乗った。

（藤沢秀行著『藤沢秀行』,1987,795）

(28) 「そうね」でも、あまり図に乗るわけにはいかないわ。

（ノーラ・ロバーツ著；平江まゆみ、矢吹由梨子訳『マクレガー家の物語』,2001,933）

(29) 朝の食事をとらなかったのに、よほど興が乗ったのか昼になっても何も食わずに絵に熱中した。

（塩川治子著『北斎の娘』,2001,913）

(30) その催し自体に気が乗らないか、あるいはタイミング、場所その他の要因のせいである。 (ブレイトマン, ハッチ著; 東山紘久訳『断る! 技術』, 2003, 361)

別義 9 は物事の発展の好機を掴んで前進することを表し、しかも良い結果が出る場合が一般的である。「波」「流れ」「潮流」など、元々具体的な水流や気流を表す語の抽象的意味、即ち運動・趨勢の意味もこの場合に属する。別義 10 も物事が順調に進む中、人がその勢いの下に取る行動を表すよりむしろ人のその場での心理状態を強調している。

別義 10 は別義 9 からメタファーによって拡張したものである。

別義 11 : <ある一定の速度を保ち><音の強弱を周期的に感じる><少し移動する>

(31) 入る前はリズムに乗って体操したり、塩をまいて安全祈願も。

(広報とうごう, 2008, 愛知県)

別義 11 は N1 (人) が N2 (リズムなどの流れ・動き) に溶け込んでいる様子を提示している。リズムは目に見えない身体感覚でとらえる波動であるが、一種の流れを持つ点では別義 8 における液体・気体に類似している。また、リズムは水や風の流れのように特定の移動方向を持たないため、主体の人は必ずしも位置的移動を行うとは限らない。むしろ別義 11 の場合、認知の焦点が人と流れの結合状態に置かれ、人が流れにうまく合わせて何らかの行動を取る様子を表している。別義 11 は別義 8 からメタファーによって拡張したものである。

ちなみに、別義 11 は規則的な流れ・動きに合うことを表し、人と流れ・動きの結合に視点を置いている。別義 9、10、11 はいずれも物事の流れや動きに強く関連するが、話し手の視点がそれぞれ異なっている。別義 9 は流れ・動きの中で前進すること、別義 10 は流れ・動きでの心理状態、別義 11 は流れ・動きとの結合を強調している。

別義 12 : <数値が><高い水準に><到達する>

(32) 九二年度の一年間で国民医療費は二十三兆五千億円の大台に乗った。

(栗林良光著『大蔵省の危機』, 1996, 317)

(33) ここは、合格ラインに乗った者だけが残るシステムになっている。

(維住玲子著『ブラボーセブン』, 1999, 913)

別義 12 は、数値が高い水準に到達すること、或いは一定的な基準を超えることを表している。別義 1 では「物の上に位置を取る・上に位置を占める」のは空間における人や物であるが、別義 12 では意味拡張モデルにおける「具体→抽象」になっているのである。

別義 12 は別義 1 からメタファーによって拡張したものである。

別義 13 : <相手からの><働きかけに><応じて><加わる>

(34) 円満退社して、困ったときには相談に乗ってもらえるような関係を維持するべきです。 (ゼニックス・コンサルティング著『個人事業の経理』,2000,336)

(35) コルドンが、本気でこの話に乗るつもりかどうか、怪しいものだった。
(逢坂剛著『熱き血の誇り』,2002,913)

別義 13 は N1 (人) が N2 (他人の言動) に応じて、話し相手の提議や誘いに応える様子を提示している。この場合、人が話し相手の仲間になり両者の関係はより緊密に繋がれる。別義 13 における精神的な接近と別義 1 に見られる物理的な接近は互いに類似性を持ち、故に別義 13 は別義 1 からメタファーによって拡張したものである。

別義 14 : <他人の話に応じる結果として><不利な状況になる>

(36) あんな女の挑発に乗って、腹を立てている自分が馬鹿らしく思えた。
(鎌田敏夫著『柔らかい心』,2002,913)

(37) タローは利口だから、その手に乗らないわ。
(安田保民著『ちょっとだけ甘い夢見させて』,2004,913)

(38) 追いつめられたあげく、藤堂の口車にうかうかと乗って、殺人という大罪を犯してしまう。
(浅黄斑著『死螢』,1997,913)

別義 13 「他人の話に応じて相手の味方や力になる」と違い、別義 14 は N1 (人) が N2 (他人の言動) によって不利な状況に陥り、怒りや悲しみに溢れる様子を提示している。別義 13 と 14 は同じく話し相手の言動に応えたが、別義 14 の場合は N1 (人) がそれによって害を受けている。したがって、認知の焦点はマイナス的な心理状態に移り、別義 13 から別義 14 への拡張は焦点化で成り立つ。

4. 「のる」の多義構造

本稿で明らかになった別義とその例文を以下に再掲し、図によって多義構造を示す。

4.1 「のる」の別義

別義1：＜移動しない＞＜物の上に＞＜あがる＞

(1) ' ベッドの上に乗る。

別義2：＜移動しない＞＜物の上に＞＜置かれる＞

(5) ' ワインがテーブルに載っている。

別義3：＜表面に＞＜よく付く＞

(8) ' 脂が乗る。

別義4：＜抽象物＞＜物の上に＞＜付着して＞＜可視化される＞

(10) ' 記事が新聞に載っている。

別義5：＜重量＞＜何かに＞＜かかる＞

(13) ' 重心が前足に乗っている。

別義6：＜物の上に＞＜あがって＞＜移動する＞

(15) ' 車に乗る。

別義7：＜道に＞＜沿って＞＜移動する＞

(18) ' 高速道路に乗る。

別義8：＜気体・液体によって＞＜運ばれ＞＜移動する＞

(20) ' 声が風に乗る。

別義9：＜流れに合わせ＞＜勢いよく＞＜進む＞

(24) ' 仕事が軌道に乗る。

別義10：＜物事の流れ・動きに応じて＞＜いい気になる＞

(27) ' 調子に乗る。

別義11：＜ある一定の速度を保ち＞＜音の強弱を周期的に感じる＞＜少し移動する＞

(31) ' リズムに乗る。

別義12：＜数値が＞＜高い水準に＞＜到達する＞

(32) ' 大台に乗る。

別義13：＜相手からの＞＜働きかけに＞＜応じて＞＜加わる＞

(34) ' 相談に乗る。

別義14：＜他人の話に応じる結果として＞＜不利な状況になる＞

(38) ' 口車に乗る。

4.2 「のる」の多義構造

「のる」の多義構造の図を以下に示す。

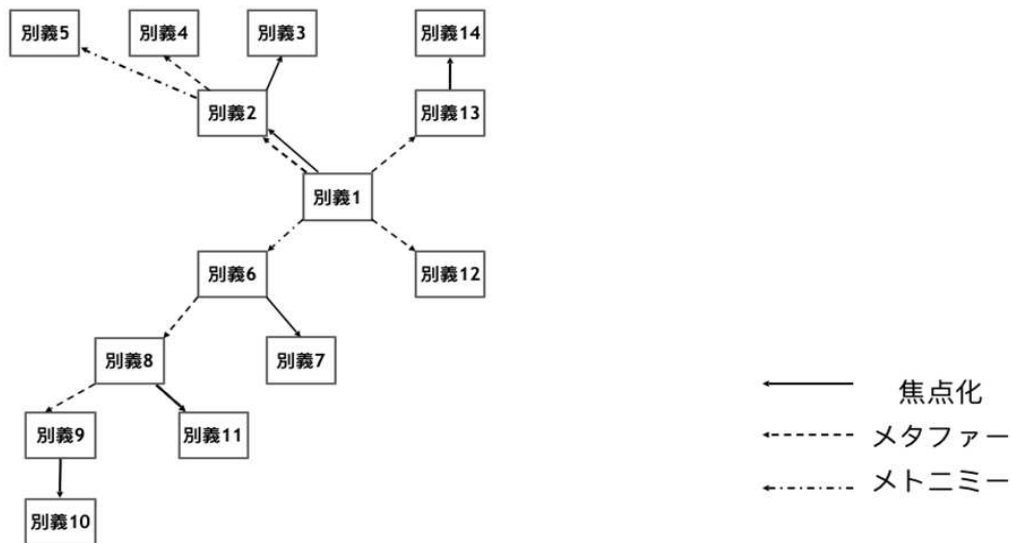


図2 「のる」の意味ネットワーク（作成 趙鴻）

5. 終わりに

本稿では、認知言語学のアプローチにより、動詞「のる」の複数の語義を総合的に検討し、互いの関連性を明らかにした。分析結果に基づき、「のる」のプロトタイプの語義は別義1<移動しない><物の上に><あがる>で、その基点から他の13の語義が派生していることが明らかになった。意味の派生を動機づけているのは、メタファー・メトニミーという比喩と焦点化である。

6. 今後の課題

類義語「あがる」との比較分析や「飛び乗る」「名乗る」等の複合動詞「-のる」の意味分析なども認知言語学の理論を用いられると思うが、今後の課題として検討していきたい。

- 注 1. 多義語について国広（1982）は次のように定義しており、本稿でもこれに従う。「多義語」（polysemic word）とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結びついている語を言う。（P.97）
- 注 2. 粂山（1994）では「カタイ」の 3 種類の表記、「固い」「硬い」「堅い」を分析し、「カタイの意味の違い（多義的別義）に対応しているとは言えない」としている。
- 注 3. 本稿では、意味を< >で括って示す。
- 注 4. 実例については「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（以下 BCCWJ）を対象に国立国語研究所と Lago 言語研究所が開発した検索システム「NINJAL-LWP for BCCWJ」（以下 NLB）を利用し例文を収集したものである。分析対象語には下線を引いた。

引用文献

- 国広哲弥（1982）『意味論の方法』大修館書店
- 国広哲弥（2006）『日本語の多義動詞－理想の国語辞典 II』大修館書店
- 粂山洋介（1994）「形容詞「カタイ」の多義構造」『日本語・日本文化論集第 2 号』名古屋大学留学生センター
- 粂山洋介（2001）「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喻」『認知言語学論考』No.1,pp.29-58, ひつじ書房

辞書類

- 小泉保・船城道雄・本田昌治・仁田義雄・塚本秀樹編（1978）『日本語基本動詞用法辞典』, 大修館書店
- 森山新（2012）『日本語多義語学習辞典動詞編：イメージでわかる言葉の意味と使い方』, アルク

日本語における「～度」を伴う漢語の 使い方及び中国語訳の特徴の考察

袁 梓鑫

要 旨

本論文では「透明度」「信頼度」「難易度」など、日本語における「～度」を伴う漢語の使い方中国語訳の特徴について考察する。

日本語における漢語接尾辞に関する先行研究を概観して分類することを通し、日本語における「～度」を伴う漢語の使い方や中国語訳の特徴に関する研究の到達点及び課題を明らかにする。それによって、本研究の方向を付けていく。

国語国立研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)の少納言と「BCC 語料庫」¹を使用し、「名詞＋度」を検索対象とし、それを含める用例を全部抽出する。そして、その中から、前接語は和語や外来語などである例を削除し、漢語の後に「度」を付けるものだけを抽出する。その中から、「度」は接尾辞ではない例を削除する。その上、「度」は接尾辞としてどのような前接語と結合するか、各前接語が占める比率はどれくらいかについて調査する。

日本語における「～度」を伴う漢語は日本語のほうがよく用いられる。それに、日本語では、形容詞と一緒に使われている場合も多い。単独で名詞として用いられる特徴もよく使われている。なおかつ、日本語の“度”には「指標」と「値」と「量」を表す用法が見られることから、中国語に訳す際には文脈を考慮する必要がある。

1.はじめに

漢語接尾辞「～性」「～化」「～的」「～賃」「～代」「～料」「～費」「～金」などの先行研究が多いが、接尾辞としての「～度」を伴う漢語の使い方とその中国語訳の特徴に関する研究は、管見の限りまだ少ない。中島晶子（2010）は新造語における「度」「系」「力」の用法に注目したが、「～度」の用い方の特徴及び中国語訳の特徴については言及されていない。

¹ 北京语言大学 BCC 語料庫 (BCC) <https://bcc.blcu.edu.cn/>

筆者は次に4つの研究焦点を設け、考察することとする。

- (1) 日本語の「～度」を伴う漢語は「程度」「度合」を表すことが多い。ほかにどのような意味を表すのか。
- (2) 日本語の「～度」を伴う漢語は「注目度が高い」のように、「～度」+「高い(低い)」の形で用いられることが多い。そのほか、「大きい(小さい)」、「よい(悪い)」、「強い(弱い)」、「広い(狭い)」などの形容詞とともに用いられることが多い。どのような用い方の特徴をもつのか。
- (3) 日本語の「～度」を伴う漢語の多くは中国語には見られないものが多く、中国語にどのように訳すのか、中国語翻訳の特徴は何か。
- (4) 中国語の「～度」を伴う漢語の多くは日本語には見られないものが多く、日本語にどのように訳すのか、日本語翻訳の特徴は何か。

『広辞苑』²では、「物事の基準・標準とすべきもの」「ほど」「ほどあい」「一を越す」と解釈している。そして、『大辞林』³では、「物事の適当な程合い」「程度」「限界」「一を過ごす」「一を越した冗談」「親密の一を増す」と解釈している。また、『新明解国語辞典』⁴では、「(物の性質の) 度合」「緊張の一を強める／深刻の一を増す／密一・温一・濃一・震一・速一・湿一・知名一・満足一」と解釈している。ここから、漢語の後に「度」を付けるのは、物事の程度、規準を表すことが分かる。

一方、「～度」を伴う漢語により、漢語の後に「度」を付ける表現の用い方が異なる。例えば、漢語の意味から見ると、「透明度」「緊密度」「新鮮度」等、物事の性質を表す場合がある。そして、「信頼度」「重要度」「好感度」等、物事に対する評価を表す場合もある。これらの現象を見ることにより、本研究では、日本語における「～度」を伴う漢語に注目する。

本研究の意義として、以下の2点があると考えられる。第1に、学術的な面からみると、先行研究より、日本語における「～度」を伴う漢語に関する研究が少ないという問題点がある。本研究は、「～度」を伴う漢語の用い方や中国語訳の特徴に注目して研究することを通して、日中言語対照研究を豊かにすることができる

² 新村出。(1991). 広辞苑.

³ 松村明。(2006). 大辞林. 第三版/三省堂.

⁴ 山田忠雄。(2012). 新明解国語辞典.

と考えられる。第 2 に、現実的な面からみると、「～度」を伴う漢語の中国語訳の特徴を検討することで、これからの中国人日本語学習者への日本語教育の在り方に提言することができると考えられる。

2.日本語の<～度>を伴う表現+形容詞・動詞構文の用い方の特徴

第(1)～第(5)まで、「高い(低い)」「大きい(小さい)」、「よい(悪い)」、「強い(弱い)」、「広い(狭い)」とともに用いられる形容詞の視点から日本語における「～度」を伴う漢語の用い方の特徴について考察してきた。

「知名度が高い」(有名)、「満足度が高い」(更満足)のように、日本語における「～度」を伴う漢語はとりわけ「高い」「低い」などの形容詞とのセットで用いられる例が多い。本節では「～度」を伴う漢語+「高い」「低い」の例を中心に考察する。

2-1.「～度が高い／低い」の構文の用い方の特徴の考察

- (1) 一方、その他の地域では、家計消費支出、政府固定資本形成への依存度が高い。/另一方面，其他地区对家庭消费支出，政府固定资本形成的依赖性高。

上記の(1)の例のように、日本語における「～度」は程度を表すものである。「依存度の高い」は「高い程度」を表す。一方で、「低い程度」を表す。「依存度」は「依存の度合い」、「離れられない度」を表す。「高い／低い」のような形容詞と一緒に使われている場合で、「高い／低い」の度合いを表す。上記の「石油の依存度」のような例文のほかに、「アルコール依存度」、「恋愛依存度」などの場合にも用いられる。調査の結果、中国語には「依存度が高い」、「依存度が低い」に相当する表現がない。中国語に訳す際、文脈により、“依赖性高”“依赖度低”と訳すべきである。

- (2) 小規模会社、成長企業、および知名度の高い多くの大手企業など、約 5000 社が上場している。/约有 5000 家上市公司，包括小型公司、成长企业以及有名的许多大型企业。

- (3) お粥餅豆しとぎ、全国区では、まだ知名度が低いのですがこちらでは、昔

から愛されている和菓子である。/粥，豆餅，年糕等在全国各地区不为人知，
但在这里，自古以来就是被喜爱的日式点心。

上記の(2)、(3)の例のように、日本語における「～度」は程度を表すものである。「知名度」とは、その企業・ブランド・商品・人名などの「名前」が知られている度合いである。様々な分野で用いられるが、マーケティングの専門用語として使用頻度が高い。「知名度の高い」は「知られている度合いが高い」を表す。一方で、「低い程度」を表す。調査の結果、中国語には「知名度の高い」、「知名度が低い」に相当する表現がない。中国語に訳す際、文脈により、“有名”“不为人知”“没名气”と訳すべきである。

- (4) アジサイはその土地の酸性度によって色を変える。酸性度が高いと”青”
が強く、酸性度が低いと”ピンク”の強くなる傾向があるという。/绣球花
能根据当地的酸度而改变颜色。据说酸度高的话呈“青”色，酸度低的话呈
“粉红”色。

上記の(4)の例のように、「酸性度」は下記の「酸性度が強い」の例文のように、「高い／低い」と一緒に使われている。「低い」と一緒に使われている場合で、「弱い程度」を表し、「高い」と一緒に用いられている場合で、「はなはだしい」の意味を含めているが、「酸度の強さの特質」が著しくないという傾向がみられる。

調査の結果、中国語には「酸性度高い」、「酸性度が低い」に相当する表現は使わない、中国語に訳す際、“酸度低”、“酸度高”と訳すべきである。

- (5) 「レジャー・余暇生活」に対する国民の関心度は高い。/国民对“业余时间、
休闲生活”的比较关心。

- (6) 都会生まれの生徒は最初、栽培の関心度が低く、履修の希望はほとんどない。
/城市出生的学生最初对栽培的兴趣不大，几乎没有进修的希望。

上記の(5)、(6)の例のように、日本語における「～度」は指標を表すものである。「関心度は高い」は「興味や関心の度合いを示す指標が高い」を表す。一方で、「低い指標」を表す。上記の「アンケートの関心度」、「趣味の関心度」のような例文のほかに、「未婚者が、自身の将来の結婚についてどの程度の関心を持っている

かを数値化したもの」の例文のように、「結婚の関心度」として、用いられる場合でもある。「関心の数値の多少」を表す。

調査の結果、中国語には「関心度は高い」、「関心度が低い」に相当する表現がない。中国語に訳す際、文脈により、“比较关心”，“兴趣不大”と訳すことが多い。

- (7) また、より効率的で市民満足度の高い行財政運営を目指し、コストや成果重視の考え方に基づく行政評価制度を導入する。/另外，以更高效、市民更满意的行财政运营为目标，引入以重视成本和成果的想法为根本的行政评价制度。

上記の(7)の例のように、日本語における「～度」は度合いを表すものである。「満足度の高い」は「満足の度合いが高い」を表す。一方で、「低い度合い」を表す。上記の「市民・住民の満足度」、のような例文のほかに、「自社の商品やサービスに対する顧客の満足度を数値化したものを指す」の例文のように、「顧客の満足度」として、用いられる場合がよくある。「満足の数値の多少」を表す。調査の結果、中国語には「満足度の高い」、「満足度が低い」に相当する表現がない。中国語に訳す際、文脈により、“更满意”，“满意度较低”と訳すことが多い。

- (8) プレイボーイは真のグローバルブランドとなった唯一の雑誌です。つまり、認知度の高い雑誌であるだけでなく、人々が共感できる姿勢やライフスタイル、シンボルがある。/“花花公子是唯一一本成为真正全球品牌的杂志，也就是说，它不仅是一本熟知度很高的杂志，还有一种让人产生共鸣的姿态、生活方式和象征。”

- (9) そのIDで他のブログを回ってコメント付けしたりとかはしていないので、認知度が低いのかもしれませんが。/因为没有用那个ID在其他的博客上发表评论，所以认知度估计很低。

上記の(8)、(9)の例のように、日本語における「～度」は状態を表すものである。「認知度」とは、「名前だけでなく、製品や事業内容まで広く知られ、ある程度中身について理解されている状態」のことだ。上記の「知名度」と違いは、知名度が「名前が知られている度合い」、「名前は知っている」、「名前を聞いたことがある」である。一方、「認知度」とは、名前だけではなくて、それがどういうもので

あるのかを知っている度合である。マーケティングの専門用語として使用頻度が高い。上記の「雑誌・ブログの認知度」のような例文のほかに、「企業が提供するサービスや商品が、どれだけ知られているかを示す指標だ」の例文のように、「企業の認知度」などの場合にも用いられる。調査の結果、中国語には「認知度の高い」、「認知度が低い」に相当する表現がない。中国語に訳す際、文脈により、“熟知度高”“認知度低”と訳すべきである。

- (10) 子どもたちの大きさのバランス、視線の配慮などが加わって、注目度の高い作品となった。/加入了孩子们体型的平衡和视线的考虑，成为了备受关注的作品

上記の(10)の例のように、日本語における「～度」は程度を表すものである。「注目度が高い」は「高い程度」を表し、「高いレベル」「ハイレベル」の意味が含まれる。話しことばの「とても」「大変」「すごく/凄く」「むっちゃ」「超<チョー>」「すんげえ/すげえ」とは異なり、書き言葉として改まった場合によく用いられる。調査の結果、中国語には「注目度が高い」に相当する表現はない。中国語に訳す際、文脈により、意識の手法をとって訳すべきである。

2-2. 「～度が強い／弱い」の構文の用い方の特徴の考察

「新鮮度が強い」（时效性强）、「酸性度が弱い」（碱性成分增强）のように、日本語における「～度」を伴う漢語は「強い」「弱い」などの形容詞とのセットで用いられる例もある。本節では「～度」を伴う漢語+「強い」「弱い」の例を中心に考察する。

- (11) そして古い情報から新しい情報へ（新鮮度が強くなり、リアルタイムへ）という属性を満たさなければ利用できないものなのである。/必须满足从旧信息到新信息更替(时效性强、实时)的属性，才能使用。

上記の(11)の例のように、日本語における「～度」は度合いを表すものである。「新鮮度」とは、魚類の場合、「魚の鮮度」のように、「新鮮度」と同じく「鮮度」と使われる。そして、「新鮮度」の用い方について中国語と日本語ではまったく異なる。中国語において書籍の場合「新鮮度」とは使わない。“新鮮度”は食品の賞

味期限の場合にはよく用いられる。ほかには、「色や明暗などのはっきりしている度合」を表す色の場合にも使われている。

- (12) 商業・サービス業用は鉱工業用に比べ金融要因の影響度が強く、また工事価格要因もかなり影響することがわかる。/商业、服务业与矿工相比，受金融因素的影响更大，而且工程价格因素也有相当大的影响。

上記の(12)の例のように、日本語における「～度」は影響の大きさを表すものである。「影響度」は「そのリスクが実現した場合にプロジェクトが受ける影響の大きさ」の意味を表し、「リスクの大きさ」の用法として、使用頻度が高い。

調査の結果、中国語には「影響度が強い」に相当する表現は使わない、中国語に訳す際、“影响大”と訳すべきである。

- (13) 客からの苦情が殺到するからだ。怖すぎる。衝撃度が強すぎる。/因为顾客的抱怨蜂拥而至。太可怕了。非常震撼。

上記の(13)の例のように、「衝撃度」は「精神的なショックの程」の意味を表し、ほかに、「車の衝撃度」の例文のように、「物理的な打撃の強さ」の意味として、使われている場合もある。調査の結果、中国語には「衝撃度が強すぎる」に相当する表現は使わない、中国語に訳す際、“震惊”、“冲击度强”と訳すべきである。

- (14) たとえばがんになると、その細胞の周辺部は酸欠状態になり、酸性度も強くなる。/例如，在癌症的情况下，细胞周围变得缺氧和表现为呈酸性特征。

上記の(14)の例のように、日本語における「～度」は値を表すものである。「酸性度」は、「強い程度」「はなはだしい」を表し、「溶液の酸性の程度の強さ」の意味を表現する。そのほかに、「酸性度が弱くなる」の例文のように、「弱い程度」を示す。中国語には「酸性度が強い」「酸性度が弱い」に相当する表現がない。中国語に訳す際、“呈酸性”“呈碱性”と訳することが多い。

- (15) 男と女の性質の違いなのかもしれない。女は一瞬一瞬、愛への集中度が強いだけに、いったん醒めたら、その醒め方もまた早い。/也许是男生

和女生的性情不同。女生一瞬间对爱的专注力很强，一旦感情消失，放手得也很快。

例文（15）のように、「集中度」は「感情の度合いの強さ」の意味を表す。ほかに、「企業の経済力」を示す場合で、「ある経済活動について特定の企業に経済力が集中していることの程度」を表し、用いられることもある。なお「eラーニング受講者の顔を Web カメラを通じて撮影し、集中度データを取得する」の例文のように、「受講者にとっては自身の学習意欲や学習効率向上等をサポートする指標になる」⁵の場合もある。調査の結果、中国語には「集中度が強い」に相当する表現は使わない、中国語に訳す際、“专注力强”、“凝聚力”と訳すべきである。

2-3. 「～度が大きい／小さい」の構文の使い方の特徴の考察

「寄与度が大きい」（貢献卓越）、「溶解度が小さい」（难溶化）のように、日本語における「～度」を伴う漢語は「大きい」「小さい」などの形容詞とのセットで用いられる例が多い。本節では「～度」を伴う漢語+「大きい」「小さい」の例を中心に考察する。

（16）砂糖は、温度が高いほど溶解度が大きく溶解速度も速い。/温度越高，糖越易于溶化，溶解的速度也越快。

上記の（16）の例のように、日本語における「～度」は限度の量を表すものである。「溶解度」とは、「飽和溶液の濃度」のことである。上記の「飽和度」と違いは、飽和度が「限界の量までとかしたときの状態のことを「飽和（状態）」という」である。一方、「溶解度が小さい」は「弱い程度」を表し、「脆いや長持ちしない」「弱々しい」の意味が含まれる。調査の結果、中国語には「溶解度が大きい」「溶解度が小さい」に相当する表現がない。中国語に訳す際、文脈により、“易于溶化”“难溶化”と訳すべきである。

（17）裁量度が大きければ、それだけ職務義務は小さいという関係にある。/工作自主性越大的话，职务义务就越小。

⁵ <https://www.pro-seeds.com/learningware/function/concentrate/>

上記の(17)の例のように、日本語における「～度」は度合いを表すものである。「裁量度」は「その仕事を行う人が、どれだけ自分の考えを反映させたり、自分で判断して行えるか」の意味を表す。元々は行政や法律の場面で利用されていたが、近年ではビジネスシーンでよく利用されるようになった。「裁量の度合いの大きさ」として使われている。調査の結果、中国語には「満足度の高い」、「満足度が低い」に相当する表現がない。中国語に訳す際、文脈により、“(工作) 自主性”、“(工作) 独立性”と訳すのが多い。

(18) また、左3列と右3列を比べると、右3列の方が凹凸度が大きい形になっている。/另外，左3列和右3列相比，右3列更加不平整。

上記の(18)の例のように、日本語における「～度」は度合いを表すものである。「凹凸度」は「物の表面が平らでないこと」の意味を表す。「平たくない度合いの大きさ」として使われている。ほかに、「クラスによって成績の凹凸度も違う」⁶の例文のように、「ものの比例の大きさ」を表し、「物事に優劣・多少などの差があって、つりあいがとれていないこと」を表す意味の場合も用いられる。

調査の結果、中国語には「凹凸度が大きい」に相当する表現がない。中国語に訳す際、文脈により、“不平整”、“有差別”と訳すべきである。

(19) 株価の安い銘柄の上下よりも株価が高い銘柄の上げ下げが平均値に与える影響度は大きい。/与股价低的股票的涨跌相比，股价高的股票的涨跌更能左右平均值。

(20) 同調査により59年の倒産発生件数を業種別にみると、サービス業、小売業の増加寄与度が大きい。/根据该调查，从59年的破产发生件数来看，服务业、零售业的增加贡献很大。

上記の(19)、(20)の例文のように、「度合いを高める」を表し、「程度や度合いが大きい」「はなはだしい」の意味が含まれる。「寄与度」とは、「貢献」という意味である。経済統計や指数などの全体の変化に対し、個々の要素の変化がどの程度の影響を与えたかを示す数値である。

⁶ <https://pro-megajun.com/archives/3262>

「影響度」は、上記の「影響度が強い」の場合のほかには、「～が大きい」と一緒に使われている場合もある。日本語における「～度」も度合いを表すものである。ここでは、「～が大きい」は「数値」あるいは「度合い」、「～が強い」は「度合い」あるいは「程度」などという言葉を含んで考えてみると、より明解に、どちらも「高い」といえる。調査の結果、中国語には「影響度は大きい」「寄与度が大きい」に相当する表現はない。中国語で“影响大”“贡献大”と訳すべきである。

- (21) 小規模企業では、10 年前と現在の満足度の差異が小さい。/和十年前相比，现在的小企业都相较心满意足。

上記の(21)の例のように、「満足度」は「満足の度合い」の意味を表し、「顧客の満足度」、「企業の満足度」として、使用頻度が高い。調査の結果、中国語には「満足度が小さい」に相当する表現は使わない、中国語に訳す際、文脈により、“如意”、“满意”と訳すべきである。

2-4. 「～度が良い／悪い」の構文の用い方の特徴の考察

「平行度の悪い」（并行性差）、「平面度が悪い」（平整度差）のように、日本語における「～度」を伴う漢語は「良い」「悪い」などの形容詞とのセットで用いられる例が多い。本節では「～度」を伴う漢語+「良い」「悪い」の例を中心に考察する。

- (22) 中高音用のスピーカを配備したスピーカ装置において、音がこもる、明瞭度が悪い、音像の定位感が損なわれる等の問題を解消する。/在配备了中高音用扬声器的装置中，消除了声音沉闷、不清晰、音像定位感受损等问题。

例文(22)のように、「見える範囲が狭い程度」「人の行動・性質や事物の状態などが水準より劣っているさま」の意味を表す。中国語で“不清晰”と訳してよい。

- (23) しかし、水中透視度がよいので、ある程度の大型の網でないと魚は捕れないだろう。/但是，由于水体很透明，所以如果不是一定程度的大型网，就捕不到鱼。

上記の(23)の例のように、日本語における「～度」は指標を表すものである。「透視度」は「水の透明の程度、濁りの度合いを表す指標となるもの」を表す。良し悪しの程度として使われている。河川や湖沼の水や排水の調査などにおいて利用される。そして、「透視度」の用い方について中国語と日本語ではまったく異なる。中国語において撮影の場合「透視度」も用いられる。ほかには、「目は目の前の遮蔽物を無視して、障害の背後のシーンを見ることができる超能力」として、使われている。また、ゲームの場合において、「ゲーム中に視界で壁を突き抜ける機能を持つアタッチメントで、物質を見て隠れたものや敵などを見ることができる」の用い方もある。調査の結果、中国語には「透視度がよい」に相当する表現がない。中国語に訳す際、文脈により、“很透明”“很清澈”と訳すべきである。

(24) 今日の世間の人は映像に関する理解度がよくて、もう起承転結を語るには及ばないからね。/如今社会上的人的影像知识储备够充分了，已经不用再过多解释了。

上記の(24)の例のように、「理解度」は日本語における「～度」は程度を表すものである。「人々が広告を通じて商品・ブランドの商品特性や機能を、どの程度理解しているかの程度」を表し、ほかに、「学校の授業をどのくらい理解しているか」、「研修の理解度をはかるアンケートどう作れば良い？」⁷の例のように、授業と研修などの場合も使われている。

そして、「理解度」の用い方について中国語と日本語ではまったく異なる。中国語の場合「理解度」は「理解している程度」や「正しく把握している度合い」の意味のほかには、“这件事我做的不好，还请多多理解”⁸の例文のように、「許し」、「容赦」の意味も含まれている。調査の結果、中国語には「理解度がよい」に相当する表現は使わない、中国語に訳す際、“理解力差”“领悟能力弱”と訳すべきである。

(25) 画面解像度は 1600 * 1200 ですが、解像度が悪いのでしょうか。/屏幕分辨率是 1600 * 1200，是分辨率差吗？

⁷ 野原茂. (2004). 看護人材 「評価・育成・活用・処遇」 用語集--能力主義人事システム導入・整備・定着のための人事管理用語の解説 (3) 看護職業熟練度別実力等級制度にかかわる面接マネジメント用語集. 看護部マネジメント/医療経営情報研究所 編, 9(193), 51-59.

⁸ <https://wenku.baidu.com/view/59102964142ded630b1c59eef8c75fbfc67d9436.html?>

上記の(25)の例のように、日本語における「～度」は度合いを表すものである。「解像度」は「対象のものを分解する度合い」を表し、ほかに、印刷の細かさも「解像度」として示される場合も使われている。スキャナー、ディスプレイ、プリンターなどで扱う画像のきめ細かさや画質の滑らかさを表す尺度である。解像度が高いほど画像が精細になり、低いほど画像が荒く見える。

そして、「解像度」の使い方について中国語と日本語ではまったく異なる。中国語において印刷の場合「解像度」とは使わなくて、“分辨率”はよく用いられる。

調査の結果、中国語には「解像度が悪い」に相当する表現は使わない、中国語に訳す際、“分辨率差”“分辨率粗糙”と訳すべきである。

(26) またノイズのある部分でもえーかなり音素認識度はよい。/此外，即使在嘈杂的地方，词语意思的识别功能也非常好用。

(27) 共通語を含む音声命令の認識度がよい音声認識装置を提供する。/提供一种对含有常用词具有高识别度的语音命令识别装置。

例文(26)、(27)のように、「認識度」は日本語における「～度」は度合いを表すものである。「程度や度合いが大きい」「はなはだしい」を表す。「ある物事を知り、その本質・意義などを理解すること」を表す。上記の「認知度」と違う点は「認知度」とは、みんなが知っているかどうかである。「認識度」というのは、どう見られているか、捉えられているかということである。調査の結果、中国語には「認識度がよい」に相当する表現はない。中国語で“识别功能好用”“高识别度”と訳すことが多い。

2-5. 「～度が広い／狭い」の構文の使い方の特徴の考察

次に日本語における「～度」を伴う漢語の使い方の特徴について、とりわけ「広い」「狭い」などの形容詞とのセットで用いられる例を中心に考察する。

(28) つまり言語許容度が広く、とても便利なのだ。/事实上，语言包容性大，易于使用。

上記の(28)の例のように、「許容度」は日本語における「～度」は程度を表すものである。「広い許容の程度」を表し、「心の大きさ」「長さと容積」の意味も含

まれる。自分の資産や気持ちの余裕度ともいえる。調査の結果、中国語には「許容度が高い」に相当する表現はない。中国語で“包容性大”と訳すことが多い。

(29) ただ、画質優先のため露出寛容度が狭くなっているので、露出がアンダーにならないように。/但是，由于以画质为主，曝光范围会变小，所以尽量避免照片变淡的情况。

例文 (29) のように、「寛容度」は主に「写真特性曲線の露光域が大きいほど、また被写体の明暗比（コントラスト）が小さいほど広くなる」の意味として使われている。ほかに、人間の態度を表す場合で「顧客の寛容度」⁹が用いられる場合もある。調査の結果、中国語には「寛容度が狭い」に相当する表現はない。中国語で“曝光范围小”“有气量”と訳すことが多い。

3.おわりに

本稿では、日本語の「～度」を伴う漢語は「程度」「度合」を表すことが多い。ほかに、例文「注目度は高い」のように、「高い程度」を表し、「高いレベル」「ハイレベル」の意味が含まれる。それに、例文「新鮮度が強い」のように、度合いを表す、例文「溶解度が大きい」のように、日本語における「～度」は限度の量を表すものである。

以上のことを総括すると、「～度」を伴う漢語は日本語のほうがよく用いられる。それに、日本語では、形容詞と一緒に使われている場合も多い。ほかには、動詞と一緒に用いられる場合もある。また、単独で名詞として用いられる特徴もよく使われている。一方で、日本語で「注目度」のような漢語は中国語に訳す際、“非常”、“相当”、“大”、“高”のような程度を表す副詞と一緒によく使われている。意味も例文によって違う。それに、主観性と客観性を表す用法については、中国語と日本語の両方に見られ、なおかつ、「程度」を表す場合が多いという傾向も両言語に確認できた。ただし、日本語の“度”には「指標」と「値」と「量」を表す用法が見られることから、中国語に訳す際には文脈を考慮する必要がある。

⁹ 犬塚篤. (2022). 顧客の寛容度分析の提案: ホテルサービスを対象にした妥当性検証. 経済科学, 70(1-2), 1-9.

参考文献

- 荒川清秀(1986)「-性-式-風」『日本語学』VOL.5、3月号、明治書院 p. 85-91
- 池上素子(2000)「「～化」について—学会抄録コーパスの分析から—」『日本語教育』106号、日本語教育学会 p. 27-35
- 王淑琴(2002)「修飾機能を持つ「-性」の語基の制約について—修飾機能を持たない「-性」の語基との比較から—」『日本語教育』114号、日本語教育学会 p. 80-89
- 姜曉偉(2019)「「支払いの金銭」を表す漢語接尾辞について—「-賃」「-代」「-料」「-費」「-金」の用法—」『岡大國文論稿』VOL.47、岡山大学言語国語国文学会 p. 56-47
- 田窪行則(1986)「-化」『日本語学』VOL. 5、3月号、明治書院 p. 81-84
- 中島晶子(2010)「新造語における「度」「系」「力」の用法」大島弘子・中島晶子・ブラン アウル編『漢語の言語学』くろしお出版

「切」を伴う中日二字漢字同形語の意味的相違の考察 —「切断」を中心に—

李 琦

要 旨

本論文では、文献調査や例文調査を通して、1.語源調査、2.日本語の「切断」で対応できない中国語の“切断”の独特な用法（6種）、3.中国語の“切断”で対応できない日本語の「切断」の独特な用法（12種）、4.中国語の“切断”と日本語の「切断」は一部対応できるが一部対応できない場合もある（3種）、5.中国語の“切断”と日本語の「切断」の共通的な用法（2種）、6.話し言葉か書き言葉かによる両言語の相違、7.中国語の“切断”と日本語の「切断」の微妙なニュアンスの違いを明らかにした。

はじめに

本論文では、「北京大学 CCL コーパス (CCL)」¹と「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」²を利用し、中国語の“切断”と日本語の「切断」を含む例文を抽出し、翻訳する際に、どのような場合に、互いに置き換えられるか否かを究明することを目指す。本論文では中国語の“切断”と日本語の「切断」の使い分け、それぞれの用い方の特徴を明らかにする。

1. 語源調査

1.1 中国語の“切断”の語源調査

《近现代汉语辞源》³には、中国語の“切断”という表現は収録されていない。筆者は「中国基本古籍庫」⁴のデータベースを検索したところ、中国語では、“切断”という表現は唐の時代(618年－907年)の《續高僧傳》⁵に既に現れていたことが分かった。

・苦言切断聞者泪流。《續高僧傳》

¹「北京大学 CCL コーパス (CCL)」 http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp 北京大学漢語語言学研究センター

²「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」 <https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/> 国立国語研究所

³《近现代汉语辞源》黄河清 (2020年3月第1版)

⁴「中国基本古籍庫」 <http://dh.ersjk.com>

⁵《續高僧傳》唐道宣撰、30巻

上記の例の中国語の“切断”は、「ありがたいお言葉は、断片的であったが、聞く人はありがたく思っ
て涙を流す」という意味を表す。

そして、「CCL コーパス」を検索したところ、“切断”という表現は唐の時代の《入唐求法巡礼行記》⁶にも既に現れていた。

- ・心不还俗，只忧所写圣教不得随身将行。又敕切断佛教，恐在路诸州府检勘得实，科违敕之罪。《入唐求法巡礼行記》

上記の例の“切断”は、「仏教の布教を禁止する」という意味を表す。

以上のように、中国語の“切断”は、唐の時代から既に使われていたことが分かった。また、上記の2例の出典はいずれも仏書であることから、中国語の“切断”は、最初は、仏教用語として用いられていたことが明らかになった。さらに、古代中国語の“切断”は最初、「断片的」のように、形容詞として使われ、また、「仏教の布教を禁止する」のように、「禁止する」という意味として使われていたことが判明した。

1.2 日本語の「切断」の語源調査

『日本国語大辞典』⁷では、日本語の「せつだん」は2種類の漢字表記が存在し、「切断」・「截断」がそれである。最初は漢字「截断」で表記されていた。室町時代（1336年－1573年）の『太平記』⁸には、以下のように表記されていた。

- ・「辞世の頌を書給ふ 五蘊仮成形 四大今帰空 将首当白刃 截断（セツタンす）一陣風」『太平記』

以上のように、日本語の「せつだん」は、漢字「截断」で表記されていた場合、「頭を断ち切る」という意味を表す。

一方、北宋（960年－1127年）の《景德伝灯録》⁹には、同じような内容を示す下記の例があった。

- ・四大元无主，五阴本来空，将头临白刃，犹似斩春风。《景德伝灯録》

⁶ 《入唐求法巡礼行記》9世紀、円仁

⁷ 『日本国語大辞典』第二版

⁸ 『太平記』軍記物語、室町時代

⁹ 《景德伝灯録》中国北宋、道原、禅宗灯史

年代からみると、北宋の《景德伝灯録》は室町時代の『太平記』よりも早かったため、この文は最初、中国の古書に由来したものだと考えられる。当時、中国語は動詞“斬”を使っていた。日本に伝わったあと、「截断」になったと考えられる。

さらに、『歌舞伎・勸進帳』¹⁰（1840年）には、漢字表記「切断」の例が出てきた。以下の例がそれである。

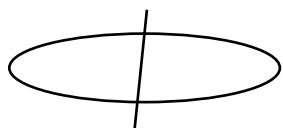
- ・「無形の陰鬼陽魔亡霊は、九字真言を以て、これを切断（セツダン）せんに、何の難き事やあらん。」『歌舞伎・勸進帳』

上記の「せつだん」は、漢字「切断」で表記される場合、「亡霊を断ち切る」という意味を表す。

以上のように、日本語の「切断」の初出時期は、中国語の“切断”の初出時期と比べれば、かなり遅いことが明らかになった。

本論文は、中国語における“切断”の語義について、《漢語大詞典》¹¹の解釈を検証する。また日本語における「切断」の語義について、『日本国語大辞典』¹²の解釈を検証する。辞書的解釈から見れば、中国語の“切断”と日本語の「切断」の意味において、共通点もあれば、相違点もある。その相違点を究明することが本論文の研究焦点である。

中国語の“切断”は“割开、截断”の意味を表し、現代日本語の「切断」は「物をたちきること。つながりやかかわりをきり離すこと」を表すため、辞書的な意味では共通していると見られる。



上記の図のように「切断」は「物をたちきること」を表す場合に用いられる。しかし、中国語の“切断”と日本語の「切断」の意味や使い方は本当に同様なのか、これが本論文の研究焦点である。

¹⁰ 『歌舞伎・勸進帳』1840年

¹¹ 《漢語大詞典》（2003年10月第1版）第2巻，563頁。

¹² 『日本国語大辞典』<https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=200202644a42VU7Sc1GB>

2. 日本語の「切断」で対応できない中国語の“切断”の独特な用法（6 種）

筆者は例文調査を通して、日本語の「切断」で対応できない中国語の“切断”の独特な用法は下記のように 6 種類に分類することを試みる。

第 1 種

- ① 每年以切断贸易来威胁中国，以引起中国对这些事务的关注，未必能达到预期目的。/ 毎年貿易を打ち切ることで中国を脅し、中国の関心を引いても、所期の目的は達成できない。

例①のように、「貿易」の場合の中国語の“切断”は日本語の「打ち切る」で対応しているため、「切断」には置き換えられない。

第 2 種

- ② 她这个人大概永远也不会像有些大夫那样，把自己对病人的感情完全切断。/ 彼女という人はたぶん、一部のお医者さんのように、患者さんへの感情を完全に打ち消すことはできないだろう。

例②のように、感情を表す場合、日本語で通常「打ち消す」がよく用いられる。「切断」には置き換えられない。

第 3 種

- ③ 2004 年 9 月 3 日下午，凤凰资讯台突然切断正常的播出。/ 2004 年 9 月 3 日午後、鳳凰資訊台は突然、通常の放送を中止した。

例③のように、テレビ番組の放送の場合、中国語の“切断”は日本語の「中止する」で対応することもある。

第 4 種

- ④ 在比赛开始的时候，鲨鱼队采取了挡拆战术，王治郅却没有跑过去帮助切断掩护后卫，而是守着姚明。/ 試合が始まった時、シャークはブロック作戦を取ったが、王治郅はカットの動きをせず、ガードの代わりに姚明を守っていた。

例④のように、スポーツのディフェンスの場合、中国語の“切断”は日本語の「カット」で対応することもある。

第5種

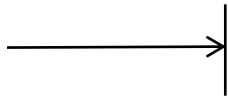
⑤現時三里店和城郊岭地带正展开了主力歼灭战，敌军后路被切断。/いま三里店と町郊外の丘陵地では主力の殲滅戦が展開されており、敵の退路は断たれた。

例⑤のように、「退路」の場合、中国語の“切断”は日本語の「断つ」で対応することもある。

第6種

⑥秦国将领白起切断赵军粮草，赵国将领赵括率兵突围，终被秦军射杀。/秦の白起が趙軍の糧道を絶ったため、趙の趙括が兵を率いて突破するが、ついに秦軍に射殺される。

例⑥のように、兵糧などの輸送の場合、中国語の“切断”は日本語の「絶つ」で対応することもある。



上記の例から考えると、この図のように中国語の“切断”は「中止する、打ち切る、物事を途中でやめにする、先へ進まないようにする」という意味があるため、それぞれの場面において「切断/切断する」には置き換えられない。日本語の「切断」は「切る」とは異なり、限られた場面にしか使われないことが分かった。

3. 中国語の“切断”で対応できない日本語の「切断」の独特な用法(12種)

筆者は例文調査を通して、中国語の“切断”で対応できない日本語の「切断」の独特な用法は下記のように12種類に分類することを試みる。

第1種

- ①紙の切断機・紙切断用カッター・書類切断機/切纸机、碎纸机
- ②チューブ切断機/钢管切割机
- ③材木用・金属・石材・プラスチックの切断機/木材、金属、石料、塑料切割机
- ④切断の長さ・切断の深さ・切断作業・切断工具（ツール）/切割长度、切割深度、切割作业、切割工具

上記の中国語訳の例はいずれも“切断”には置き換えられない。日本語の「切断」

の用い方の特徴の一つは、工業領域において、「割る」「物をいくつかに分ける」「切って分割する」を表す場合によく用いられることである。逆に、この場合、中国語では“切断”とは使われず、“切割”のほうがよく使われている。

第2種

- ①ペンチで切断すれば、さくは容易に破られる。/要是用钳子夹断的话，栅栏很容易破。
- ②タガネで切断し、ハンマーでたたいて刃をつくりだす。/用刀片割断，再用锤子敲打出刀刃。
- ③のこで切断され、床材としてギャラリーに置かれてあった。/被人用锯子锯断，作为地板材料放在画廊里。
- ④駆血帯を、雑剪を用いて切断する。/用杂剪剪断驱血带。
- ⑤電気スパークを利用して彫刻の切断を行う。/利用电火花对雕刻进行切割。

上記の中国語訳の例はいずれも中国語の“切断”には置き換えられない。中国語の切割類動詞の使用は道具の性質によって変わるが、日本語ではこのような制限がないことは上記の例から判明した。

第3種

- ①あなたの首くらい簡単に切断出来るわよ。/我可以轻松砍断你的头。
- ②枝などを切断する時は、作業を始める前に、ワイヤーフェンスなどの異物がないことを確認してください。/在锯树枝（剪树枝・割树枝）等的时候，在开始工作之前，请确认周围有无钢丝围栏等异物。
- ③頭蓋骨が真っ二つに切断され、バネ仕掛けのように脳味噌が、夜空に向かって四散した。/头盖骨被劈成两半，脑浆像弹簧一样向着夜空四散而去。

上記の中国語訳の例はいずれも中国語の“切断”には置き換えられない。中国語の切割類動詞の使用は切られる物の性質によって変わるが、日本語ではこのような制限がないことは上記の例から判明した。

第4種

- ・Web 会議中に音声や映像が切断！オンライン MTG のトラブルを解消する方法とは？/网络会议中声音和画面卡顿！解决线上网络故障的方法是？

以上の例のように、日本語の「切断」は中国語の“卡顿”で対応する場合がある。

日本語の「切断」は「音声聞こえなくなる・映像が見えなくなる」という意味を持ち、通信用語として用いられる点は中国語とは異なっている。

第5種

- ・別のブラウザタブや端末で新しいセッションが開かれたため、このセッションは切断されました。/因为在别的浏览器标签和终端上打开了新的会话，所以这个会话被中断（关闭）了。

以上の例のように、日本語の「切断」は中国語の“中断（关闭）”で対応する場合がある。日本語の「切断」は「閉める・終わる」という意味を持ち、通信用語として用いられる点は中国語とは異なっている。

第6種

- ・Wi-Fi が安定せず、切断は日常茶飯事。/Wi-Fi 持续时间不长，断网是家常便饭。

以上の例のように、日本語の「切断」は中国語の“断网”で対応することがある。通信領域において、ここの日本語の「切断」は「Wi-Fi の接続が切断される」という意味を持ち、逆に、中国語に訳す場合、“切断”とは使えない。

第7種

- ・最近のゲームは、オンラインで世界中のプレイヤーとつながって遊ぶことができる。しかし、通信対戦ならではの問題として、「故意の切断」がしばしば話題に挙がる。/最近的游戏可以通过网络，与世界各地的玩家一起玩。但是，作为通信对战所特有的问题，“故意退出”经常成为话题。

以上の例のように、日本語の「切断」は中国語の“退出”で対応することがある。ゲーム領域において、ここの日本語の「切断」は「回線を故意に切断する」という意味を持ち、この意味として用いられる点は中国語とは異なっている。

第8種

- ①切断点を境に右の外壁線を残して右図のようにコーナー連結される。/以切点为界，留下右边的外壁线，像右图那样拐角连接。
- ②立方体を、同じ大きさ、同じ形の2つに切断する。/将正方体分割成大小相同、形状相同的两部分。

上記の中国語訳の例はいずれも中国語で“切断”には置き換えられない。数学用語において、日本語の「切断」と中国語の“切断”は使い方が異なっている。

第9種

- ・酸触媒による切断反応が繰り返されて、ポリマーは細かく分断される。/反复进行酸催化剂的切割反应，聚合物被分割成细小的部分。

上記の例は化学用語として用いられる日本語の「切断」の例である。逆に、中国語で“切断”には置き換えられない。化学用語における日中両言語の「切断」の使用も異なっている。

第10種

- ・ただいま通産省からも御説明がありましたが、この訪問販売の抗弁の切断の問題、一番よけいに出ておりますのが訪問販売等によります割賦購入でございます。/刚才通产省也解释了，关于此次访问销售的中断辩护一事，最突出的是，由于访问销售所产生的分期付款买入，这一问题。

上記の例は法律用語として用いられる日本語の「切断」の例である。逆に、中国語で“切断”には置き換えられない。法律用語における日中両言語の「切断」の使用も異なっている。

第11種

- ①切断術は、患肢温存手術では根治性が期待できないときのみ適応とされます。
/ 截肢手术，只有当保留患肢的手术无法根治病情的时候，才被认为是适合的。
- ②普通のメスでは切断面から出血することは避けられません。/普通手术刀无法避免从创面出血情况的发生。
- ③切断部の挫滅組織を切除します。/切除断处的挫伤组织。
- ④症例によっては病変部の切断を考慮する。/根据病例，考虑切除病变部位。

上記の中国語訳の例はいずれも中国語で“切断”には置き換えられない。医学用語において、日本語の「切断」と中国語の“切断”は使い方が異なっている。

第12種

- ・昭和58年12月24日、三重県で、死体をバラバラに切断して遺棄する殺人、死体遺棄事件が発生した。/昭和58年12月24日，三重县发生了一起将尸体

肢解后遗弃的杀人、弃尸事件。

以上の例のように、日本語の「切断」は中国語の“肢解”で対応することがある。日本語の「切断」は「人間の体を乱暴的に、ばらばらにする」という意味を持ち、この意味として用いられる点は中国語と異なっている。

4. 中国語の“切断”と日本語の「切断」は一部対応できるが、一部対応できない場合もある（3種）

筆者は例文調査を通して、中国語の“切断”と日本語の「切断」は一部対応できるが、一部対応できない場合もあることを下記のように3類に分け、説明する。

第1種

①按下电源键切断电源。/電源ボタンを押して、電源を切断した。

②魏军切断了山上的水源。/魏軍は山の水脈を切断した。

③世界的主要石油来源被切断了。/世界の主要な石油供給ルートが切断された。

上記の中国語文の目的語はいずれも、“源”で終わる複合名詞である。上記の例から、電気は電線で輸送されるもの、水は川筋に沿って流れるもの、石油はパイプラインで輸送されるものであり、回線・道筋・パイプなどで運ばれた物を止めることを表す場合、中国語の“切断”は日本語の「切断」で対応することができる。

次に、下記の例をもって説明する。

④切断火源。/火炎遮断・着火源を除去する。

⑤切断泄漏源。/漏出源を遮断する。

⑥切断财源。/財源を遮断する。

⑦切断光源。/光源を遮断する。

⑧切断传染源。/感染源を遮断する。

上記の例文の目的語も“源”で終わる複合名詞である。しかし、パイプで運ばれた物ではなく、これらの物を止める場合、日本語で通常「遮断する」とよく用いられるが、「切断」には置き換えられない。

第2種

下記の例文を考える。

①水脈が切断されると川が枯れる。/水脉被切断的话，河流就会枯竭。

②拡張した静脈を切断する。/切断扩张的静脉。

③中東の徹底破壊も、物理的だけでなく宗主国との人脈切断があると思う。/中东被彻底破坏,这不仅仅是指物理上的,我认为还体现在,中东与宗主国之间的人脉关系被切断的问题上。

④安代城は、尾根の背後を堀切で切断して築かれた屋敷城である。/安代城是用堀切的方法,将山脊从背后切断而建的宅邸城。

「水脈」「静脈」「人脈」のような「～脈」で終わる表現の場合、中国語の“切断”は日本語の「切断」で対応することもできる。「水脈」「静脈」の場合は具体的な用法であり、「人脈」のような場合は抽象的な用法である。「山脈」の場合について、日本人は「切断された山」、「尾根を切断する」と言うことが分かった。

「山脈」は大きすぎて、切断することは現実的に、実現できないため、「山脈を切断する」という表現はない。逆に、中国語の場合、“三峡两岸的风景大多都是笔直陡峭的山脉,滚滚长江从两山之间奔流而过,将巫山山脉切断”のように、“切断”と用いられる。

第3種

①将雌、雄的老鼠尾巴都切断后,再让其互相交配来产生子代,而生出来的结果也依旧都是有尾巴的。/メス、オス両方とも尾を切断したマウス同士を交尾させて子供を作らせても、生まれた子供は尾がある。

②她的喉管被切断了。/彼女の気管は切断された。

上記の中国語の“切断”はいずれも日本語の「切断」で対応しているため、共通している用法と見られる。下記の日本語の例もそれである。

③6月末に妊娠がわかりましたが子宮外妊娠だったため左卵管を切断する手術をしました。/6月末,得知了怀孕,但是因为是宫外孕做了切断左输卵管的手术。

④切断された神経と血管を縫合していきます。/缝合被切断的神经和血管。

⑤出生によって母親と胎児をつなぎ栄養を運んでいた臍帯は切断され、それは口に置き換えられます。/随着婴儿出生,连接母亲和胎儿并运送营养的脐带被切断,脐带的功能开始由嘴代替。

⑥人間の大動脈を切断した時、勢い良く血液が噴き出すのは当然です。/人的大动脉被切断的时候,血液当然会迅速地喷射出来。

以上の例文から分かるように、体の一部を断ち切ることを表す際に、中国語の“切断”は日本語の「切断」で対応することができる。目的語としての器官「尾」

「気管」「卵管」「血管」「神経」「臍帯」「動脈」は帯のようなもの・細長いという特徴が見られる。

次に下記の例をもって説明する。

⑦場合によっては、足の一部を切断しなければならなくなることもあります。/

根据情况，也有可能不得不截肢。

⑧「幻肢痛」四肢の切断後にみられ、実在しない四肢に認められる痛みを言います。/幻肢痛指的是，截肢后，在已经不复存在的四肢的地方（仍然）感觉得到痛感的现象。

⑨そのジャンルは、首の切断を美化し、ほとんどありふれたものにしてゆく。/那个体裁美化了斩首，几乎使其成为了随处可见的事物。

⑩大阪で女子中学生が男性を引き摺ったまま走り、被害者男性は耳を切断する重傷を負いました。/在大阪，一名女中学生拖着一名男性跑，被害男性受了割断耳朵的重伤。

上記の中国語訳の例はいずれも中国語の“切断”には置き換えられない。身体の一部を切り落とすことを表す場合、切られた身体部位の厚さによって“截”“斩”“割”などの動詞を使い分けていることが分かった。

5. 中国語の“切断”と日本語の「切断」の共通の用法（2種）

第1種

①他用刀把绳子切断。/彼はナイフでロープを切断した。

②戒指拿不下来的话，只要去消防局，他们就会帮忙把戒指切断。/指輪が取れない場合、消防署に行けば、切断してくれる。

上記の中国語の“切断”はいずれも日本語の「切断」で対応しているため、共通している用法と見られる。下記の日本語の例もそれである。

③米軍調査によると、女性たちは同部隊の鉄条網を切断して侵入し、補給物資があるところに接近したが、歩哨に発見され、逃げようとしたものだ。/据美军调查，这些女性切断该部队的铁丝网后，进入了有补给物资的地方，但被哨兵发现后试图逃跑。

④彼らの今までやっていた行動を見ますと、ケーブルの切断、通信ケーブルをねらった犯行を重ねているのですね。/从他们迄今为止的行动来看，他们多次瞄准切断电缆、通信电缆，实施犯罪。

⑤足場用鉄パイプを切断して土中に埋め込む。/切断脚手架用铁管埋入土中。

⑥水道・電力・ガス供給の切断/切断自来水、电力、煤气供应。

以上の例文から分かるように、網状のもの、帯状のもの、管状物およびパイプで運ばれたその物の場合、中国語の“切断”は日本語の「切断」で対応することができるため、共通している用法と見られる。

第2種

①ネットが切断されてしまう。/网被切断了。

②コネクションを切断して通信を終了する。/切断连接，终止通信。

③それでも応答がなければ障害が発生したと認識し、無線接続を切断する。/如果仍然没有应答，就认定发生了故障，切断无线连接。

④スマホ電源オフにすると、位置情報などの全てのスマホ情報が切断される。/关闭手机电源的话，位置信息等所有手机信息都会被切断。

⑤新政权切断了与外国的交通，通讯，对外采取了封闭的态度。/新政权は外国との交通・通信を切断し、外に対して、閉鎖的な態度をとった。

以上の例のように、目的語は「ネット」「コネクション」「接続」「情報」「交通」「通信」のような抽象的な物の場合において、中国語の“切断”は日本語の「切断」で対応しているため、共通している用法と見られる。

6. 話し言葉か書き言葉かによる両言語の相違

中国語の“切断”と日本語の「切断」は、話し言葉として使われるのか、書き言葉として使われるのか、という相違があり、下記の例をもって説明する。

①長時間使用しない場合は、スキャナーの前面にある電源ボタンを 2 秒間以上押し、電源を切断します。/长时间不使用时，按住扫描仪正面的电源键 2 秒以上，切断电源。

②（プリンター）主電源を切断しています、しばらくお待ちください。/正在切断主电源，请稍等。

上記の例のように、中国語の“切断”は日本語の「切断」で対応しているが、中国語の“切断”は話し言葉でも書き言葉でもよく用いられるのに対して、日本語の「切断」は主に書き言葉として用いられる。話し言葉では「電源を切断してください」よりも「電源を切ってください」のほうがよく使われる。

7. 中国語の“切断”と日本語の「切断」の微妙なニュアンスの違い

下記の例をもって考える。

- ① 车辆入库停车后, 要切断电源, 检查是否留下火种。/ 車が入庫して駐車したら、電源を切って/切断し、火種が残っていないか点検する。
- ② 電源が切断されたときにパソコンの電源が入っていた場合は、電源プラグにコンセントを接続すると、電源 ON 状態になります。/ 电源被切断的时候电脑的电源是开着的情况下, 在电源插头上连接插座的话, 电源就会变成 ON 状态。
- ③ 通話をしながらターミナルアダプターの電源を切断すると通話が切れてしまいます。/ 一边通话一边切断终端适配器的电源的话通话就会中断。

以上の例のように「電源を切断する/電源が切断された」は、望ましくない事態のことを表す場合によく用いられる。これらの例文から、中国語の“切断”と日本語の「切断」のニュアンス上の違いが窺える。

おわりに

本論文では、中日コーパスを利用して、中国語の“切断”と日本語の「切断」を含む例文を抽出し、翻訳する際に、どのような場合に、互いに置き換えられるか否かを究明した。また、中国語の“切断”と日本語の「切断」の使い分け、それぞれの用い方の特徴を明らかにした。以下のようにまとめられる。

1. 語源の調査を通して、日本語の「切断」は、古代中国語の“切断”に由来したことが判明した。
2. 日本語の「切断」で対応できない中国語の“切断”の独特な用法として、①貿易を打ち切る、②感情を打ち消す、③放送を中止する、④スポーツのディフェンスの場合「カット」、⑤退路を断つ、⑥糧道を絶つ、といった 6 つの場合、中国語の“切断”は日本語の「切断」で対応できない。
3. 中国語の“切断”で対応できない日本語の「切断」の独特な用法は下記のように 12 種ある。
①工業領域、②道具の性質、③切られる物の性質、④⑤⑥⑦通信用語・ネット用語関連、⑧数学用語、⑨化学用語、⑩法律用語、⑪医学用語、⑫肢体を裂くという 12 項目において、日本語の“切断”は中国語の“切断”で対応できない。第 3 節をご参照されたい。
4. 中国語の“切断”と日本語の「切断」は一部対応できるが一部対応できない場合もある。下記の 3 種がそれである。

①“源”で終わる複合名詞関連、②“脈”で終わる複合名詞関連、③身体部位関連という3つの項目において、中日両言語の「切断」は一部対応できるが、一部対応できない。第4節をご参照されたい。

5. 中国語の“切断”と日本語の「切断」の共通的な用法は下記の2種にまとめられる。

①網状のもの、帯状のもの、管状物およびパイプで運ばれたその物の場合、②目的語は「ネット」「コネクション」「接続」「情報」「交通」「通信」のような抽象的な物の場合、中日両言語の「切断」は共通している。第5節をご参照されたい。

6. 中国語の“切断”は話し言葉、書き言葉両方とも用いられるが、日本語の「切断」は主に書き言葉として用いられる。

参考文献

彭飛（2004）『中国語虎の巻一実力アップ15の秘伝』東方書店

彭飛（2006）中国語と日本語の対照研究が抱える諸問題(7)中国語の動詞“説”（“説”を伴う表現）と日本語の動詞「言う」「話す」（「言う」「話す」を伴う表現）との共通点及び相違点をめぐって

コーパス関連

「北京大学 CCL コーパス（CCL）」

「現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）」

「中国基本古籍庫」データベース

「日本語歴史コーパス CHJ」

日本語の「受領」と中国語の“受領”における 意味や用い方の相違の考察

崔 子銘

要 旨

本研究では、日本語の「受領」と中国語の同形語“受領”を中心に、「受」を伴う日中漢字同形語の語源、使用法、意味の違いを考察した。「受領」と“受領”の使用例を対照した結果、日本語の「受領」は公式・非公式を問わず幅広い場面で使用される一方、中国語の“受領”は主に行政手続きや公式文書に限定され、日常会話ではほとんど使用されないことが分かった。また、日本語では「受領」の他に「拝受」「拝領」「受理」などの類義語が多様に存在し、使用場面や敬語体系に応じて使い分けられる。一方、中国語では“受領”の代わりに“領受”などの表現も用いられ、能動的な行為を示すことが多い。

これらの考察から、日中漢字同形語は文化的・社会的文脈の違いによって意味や用い方が異なり、特に公式的な場面に限定される傾向があることが示された。

はじめに

本稿では、日本語の「受領」と中国語の漢字同形語の“受領”とどのような相違点を持つのか、中国語訳の特徴は何かに関して考察する。

日本語の「受領」と中国語の“受領”は漢字同形語であるが、使用範囲や使用頻度がかなり異なっている。

1. 「受領」の語源について

中国語の“受領”はいつ頃から使い始めたのか、その語源を探り、歴史的変遷を明らかにする。

1.1 中国語の“受領”の語源について

中国語の“受領”の語源について、《CCL 语料库检索系统（网络版）》¹を調査したところ、“受領”という表現は唐代に遡ることが確認できた。以下はその最初の使用例である。

¹ 北京大学「CCL 语料库检索系统（网络版）」, http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp

(1) 其王用男所與臣馬一匹，并鞍銜白玉腰帶一條，臣并未敢受領。

(韓愈《進王用碑文狀》)

上記の例文(1)に示されているように、唐代の韓愈が記した《進王用碑文狀》には、“受領”という語が初めて使用され、ここでは物品を受け取る行為を示している。このことから、“受領”が「物を受け取る」という意味で唐代において使われていたことが分かった。

さらに、《漢語大詞典》²の中国語の“受領”の最初の使用例は、唐代の長孫無忌が編纂した《唐律疏議》においても確認されている。

(2) 謂詐為私文契，及受領券付抄帖，以求避罪，或改年月日限之類，止從所欺妄求物之罪，不同官文書之坐。妄認良人為奴婢。

(長孫無忌《唐律疏議》)

この例文(2)では、“受領”が文書を受け取る行為に関連して使われており、唐代においては行政文書や契約など、公式な場面でも“受領”という表現が用いられていたことが示されている。

以上の例文から、中国語の“受領”は物品や文書の受け取りを表す言葉として使用されていたことが確認できる。しかし、現代中国語においては“受領”の使用は減少し、日常会話であり用いられない表現となっている。代わりに、同義の動詞“領受”がより一般的に使用されるようになってきている。《現代漢語詞典》³の“受領”の解釈では“領受”とされており、“領受”が“接受”の意味を持つとされていることから、“受領”のかわりに使われていると考えられる。

つまり、“受領”という表現は現代中国語においては政府や行政機関が指示を出す際など、公式な文脈で用いられる専門用語に変わり、一般的な日常会話では“領受”がその役割を果たすようになったのである。

1.2 日本語の「受領」の最初の例について

「日本語歴史コーパス」⁴から収集された例文を分析したところ、日本語における「受領」の初出は、平安時代に遡ることができる。以下の例文がその最初の使用例である。

² 漢語大詞典編輯委員會，《現代漢語詞典(第七版)》，上海辭書出版社，2010

³ 中國社會科學院語言研究所詞典編輯室，《現代漢語詞典(第七版)》，商務印書館，2016

⁴ 國立國語研究所「日本語歴史コーパス」，<https://clrd.ninjal.ac.jp/chj>

- (1) また、この男、市といふところにいでて、透影によく見えければ、ものなどいひやりけり。受領などの娘にぞありける。まだ、男などもせざりけり。後の宮のおもと人にぞありける。

(『平中物語』)

この例文に見られるように、平安時代の『平中物語』における「受領」は、「ずりょう」と読み、現代日本語で「じゅりょう」と読む「受領」とは異なる意味を持つ。ここでの「受領」は、「受け取る」という意味ではなく、名詞として用いられており、地方行政の職務を担当し、或いはそのような職務に任命された高位の官吏を指す。

一方で、現代日本語で「じゅりょう」と読む「受領」の最初の使用例は、江戸時代末期に確認される。以下にその例を示す。

- (2) 扱歌沢の家元が受領は当巳年六月の事にして。

(梅暮里谷峨二世『春色連理の梅』)

この例文における「受領」は、「じゅりょう」と読み、現代日本語で「受け取る」ことを指す意味で使用されている。このように、江戸時代末期になると、「受領」という語が「ずりょう」から「じゅりょう」という新たな用法を持つようになり、物や権利を受け取ることを指す意味として定着していった。

ここで注目すべき点は、「ずりょう」と「じゅりょう」は、同じ漢語「受領」を使用しているものの、それぞれ異なる意味を持つという点である。「ずりょう」は古代日本語で使われたが、現代では使われなくなった。一方で「じゅりょう」は、現代日本語で一般的に使われるようになった。この二つの用法は相互に代替する関係ではないと考えられる。

1.3 まとめ

以上の考察を通じて、中国語の“受領”と日本語の「受領」の語源や変遷において、幾つかの共通点や相違点が見られた。中国語における“受領”は、物品や文書の受け取りを表す言葉として唐代から使用されていたが、現代中国語では使用頻度が減少し、公式な文脈でしか使われない表現となった。一方、より一般的な日常表現として使われている“領受”がその役割を果たしている。

日本語の「受領」においては、平安時代に「ずりょう」として地方行政の職務に関連する名詞として使用されていたが、江戸時代末期には「じゅりょう」として、物や権利を受け取

る意味で用いられるようになった。現代日本語では「ずりょう」の用法は消えたが、「じゅりょう」が定着している。

このように、中国語と日本語の「受領」は、それぞれ異なる変遷を経ながらも、物や権利の受け取りを表すという基本的な意味を共有しつつ、時代とともにその使用範囲や適用場面に変化が見られたことが確認できた。

2. 「受領」と“受領”の使い方の特徴

次に日本語の「受領」と中国語の“受領”の例文を考察する。

- (1) パスポートを受領する。/领取护照。
- (2) 毎年1度作業服を受領する。/每年领一次工作服。
- (3) “受領”一般要经过“送达程序”，接受送达的相对人在送达书上签名。/通常、「受理」は必ず「送付と送達」の手続きをとり、受け取る側にサインすることが求められる。

(邹瑜《法学大辞典》)

- (4) 史德明班光荣地受领了突击任务。/史德明班は光荣にも突撃任務を受けた。

(碧野《我们的力量是无敌的》)

上記の例文から、日本語の「受領」と中国語の“受領”の使い方に違いが見られる。日本語の「受領」は、主に「受け取る」という意味を持ち、日常生活でも広く使われる言葉である。それに対して、現代中国語の“受領”は日常会話ではあまり用いられず、政府や行政機関が指示を出す際に使われる専門用語としての性格が強い。

次に日本語の「受領」の使い方を考察する。

- (5) 通知書を受領してから約2週間が手続きの期間になります。/收到通知书两周内办理手续。
- (6) 広告に対する排除命令の受領について。/关于接到的清除广告命令。
- (7) もともと領収書は一定の金額を受領した事実を証明するための物である。/收据本来就是为证明收取了一定金额的事实而存在的。
- (8) 日曜日、パスポートを受領に行こうと思っています。/我想在星期天去领护照。
- (9) 製薬メーカーから仕入れリベートを受領していますか。/拿到制药厂的采购回扣了吗？

上記の例文から分かるように、日本語では通知書や書類、金品などの受け取りに「受領」が幅広く使用されている。それに対して、中国語では“受領”は日常会話ではあまり使用されず、“领取”“收到”“收取”などの動詞が使われ、具体的な物品や金品に対する受け取りを表現する際には“領”や“收”を含む表現がよく用いられる、という特徴が窺える。

このことから、中国語の“受領”は日本語の「受領」とは異なる点が多いことが分かった。中国語の“受領”は、受け手の能動的行為を直接表現するのが難しく、その代わりに“領”や“收”を含む表現で能動的な行為を示すことが多い。結果として、“受領”の使用範囲は限られ、堅い文章や公式な文書でしか使われない傾向が窺える。

対照的に、日本語の「受領」は「受ける」という動詞の影響を受け、能動的な行為であっても、受け手の立場を強調して表現することができる。そのため、適用範囲が広く、日常生活においても広く使用されている。

3. “受領” 和 “領受”

中国語には“受領”という日本語の「受領」と同じ字形を持つ語が存在するが、実際の使用法や頻度において大きな違いがある。現代中国語では“受領”はあまり使われず、公式文書や特定の場面でしか見られない。一方、“受領”とは語順が逆さまになった“領受”が、日常生活で頻繁に使われるようになっている。

《現代汉语词典》における“領受”の解釈では“接受（多指接受好意）”とされ、具体的には、「領受任务/任務を引き受ける」「領受礼物/贈り物を受け取る」などの状況で使われる。下記の例文がそれである。

- (1) 領受奖品。/賞品を受け取る。
- (2) 大家的盛情我領受了。/皆様のご厚情をいただきました。
- (3) 拜領圣体的人为了領受圣体跪了下来。/聖体拝領者は聖体を受けるためにひざまずいた。

これらの例文から分かるように、中国語の“領受”は、動作主が意図的に行為を行う場合に使われる。例文(3)では、動作主が自発的に宗教的な儀式を受け入れる場面が描かれており、このような意図的行為を表現する場合、“領受”が使われる。

“領受”は“領”が先に来ることによって、動作主が能動的に行動するイメージを与える。これに対して、“受領”は“受”が先に来るため、受け手の立場が強調され、意図的行

為を表現するのには適していない。この違いから、“領受”は日常会話で頻繁に用いられるだけでなく、日本語の「受領」の意味と対応する場合も多い。

“領受”の日本語訳として「受ける」「受け取る」「いただく」などがあり、これらの動詞は「受領」と類似する意味を持ち、受け手の能動的行為を表現する際に適している。この点は、前述の「受領」と“領受”の違いに関する考察とも一致しており、中国語の“領受”が当事者の意図的行為を強調するため、日常生活でより多く使用されるという結論に導くことができる。

4. 日本語の「受領」の用い方の特徴

日本語の「受領」は下記のような用い方の特徴が窺える。

まず、「受領」は敬語ではないが、丁寧な改まった表現である。「受領」という言葉は「受ける」＋「領（収める）」から成り立っている。これにより、「受領」を分解して考察すると、「受」は「受ける（受け取る）」という動詞であり、「領」は「正式な状況で使用される大切なもの」を意味する。したがって、「受領」は「受け取る」よりも丁寧で改まった表現とされるが、これ自体は敬語ではない。しかし、公的な文書やフォーマルな場面で多用されるため、改まった状況での使用に適しているといえる。

次に、「*受領させていただきます」という用い方がない。「受領」の敬語表現としては「受領しました」や「受領いたしました」が一般的である。それに対し、「させていただく」という表現を使って「受領させていただきます」という言い回しは不適切である。

「させていただきます」は相手の許可を得て行動するニュアンスを持つが、「受領」の場合、物や文書の受け取り行為は許可を得るものではなく、既に相手から渡されたものを受け取る行為であるため、この表現は不自然となる。

そして、「受領」は「じゅりょう」のみならず、「ずりょう」という読み方もある。「受領」は「ずりょう」と読む場合、「じゅりょう」の意味とは異なる。「受領（ずりょう）」とは、国司四等官のうち、現地に赴任して行政責任を負う筆頭者を平安時代以後に呼んだ呼称であり、実際に現地に赴任する国司が前任者から文書や事務の引継を受けることを「受領（する）」と言い、それが職名になった。下記の例文がそれである。

- (1) 一生受領だった父。/父亲当了一辈子巡抚。
- (2) 父はずっと受領として遠近の国々へお回りになっていた。/父亲一直以巡抚的身份周游各国。

最後は、「受領」は「形あるもの」との関連が強く、複合語としても使われる。「受領（じゅりょう）」は、形あるものを受け取る際に使われることが多く、複合語として「受領書」「受領印」「受領者」などの形で使用される。以下はその使用例である。

- (3) 会計のおつりを、受領書といっしょに田中にわたした。/把账单和结账找的钱，一起交给了田中。
- (4) 青木は金を調べ、前に置かれてる受領書へ捺印した。/青木确认了数额之后，在面前的提货单上签字画押。
- (5) 受け取りにおいては、受領印またはフルネームのサインが必要である。/领取的时候，需要盖章或者签全名。
- (6) この通信文の受領者は、これを重要なものと考えていなかったのである。/听到这个通知的人，都没有把这个当回事。

これらの例文から分かるように、「受領書」「受領印」「受領者」などの複合語は、現代中国語ではそのまま訳すことが難しい。これは、古代中国語において“受領”という言葉が頻繁に使用されていたが、現代中国語ではほとんど使われなくなったと考えられる。

5. 「受領」と類似する類義語の用い方の特徴及び相違点

「受領」と類似の表現がいくつか存在し、「拝受」と「拝領」は、謙譲語として特に丁寧な表現に用いられる。次に「受領」と関連する「拝受」「拝領」「受理」といった類義語の特徴や相違点について例文を通して考察する。

5.1 日本語の「拝受」の用い方の特徴

「拝受」は「受領する」という意味を持ち、品物やお金を受け取る際に用いられる表現である。ただし、「拝受」は「拝む（おがむ）」と「受ける」を組み合わせた語であり、「拝む」という動作により、目上の人に対する敬意を示す。つまり、「尊敬の意をもって受ける」という意味であり、「受領」の謙譲語として使われる。以下の例文を通して、「拝受」の使用場面を確認する。

- (1) 取締役を拝受する。/接受(公司的)董事职务。
- (2) お手紙を拝受いたしました。/您的来信已经收到。

これらの例文に見られるように、「拝受」は敬意を込めて職務や手紙を受け取る場合に使用され、謙譲の表現として使われる。

5.2 日本語の「拝領」の使い方の特徴

「拝領」も「拝受」と同様、物を受け取る際に使われる謙譲語であるが、特に目上の人や貴人から贈られるものに対して使用される。「拝領」はやや仰々しい表現であり、特に歴史的背景のある状況や格式の高い場面で使用される。以下の例文がそれである。

(3) このようなお宝を拝領し、身に余る光栄です。/能得到这样的宝物，我感到无上光荣。

(4) 将軍より名刀を拝領する。/我从将军那里得到了一把名刀。

これらの例文から、「拝領」は高貴な贈り物や目上の人からの贈与に使われることが確認でき、フォーマルな場面に限定される表現であることが分かる。

5.3 日本語の「受理」の使い方の特徴

「受理」とは、提出された願書や届け出、訴状などを受け取って処理することを表す言葉である。公的機関や会社が書類や申請を正式に受け入れる際に使われ、単に物を受け取るだけでなく、内容を審査し、それを認めるという意味が含まれている。

次に例文を通じて、「受理」の使い方を確認する。

(5) 婚姻届を受理する。/(民政局) 受理结婚登记。

(6) 自分自身が窓口に来たことが確認できない場合は受理しない。/如无法确认是本人来窗口办理业务，将不予受理。

(7) 新党「改革グラフ」は東京都選挙管理委員会を通じ総務省に受理された。/通过东京选举管理委员会，新党的“改革进度表”得到了总务省的受理。

(8) ユーザからの質問を受理する。/受理用户的疑问。

(9) 辞表を受理する。/受理辞呈。

これらの例文から分かるように、「受理」は主に公的機関や会社が申請や届け出などを受け取る際に用いられ、正式に処理するという意味が含まれている。「受理」は単なる受け取り行為ではなく、受け取ったものを審査し、認めた上で処理する行為を表す。

一方、「受領」は金品や書類などを受け取る行為を示す表現であり、主に受け取る動作自体に焦点が当てられている。「受理」とは異なり、受け取ったものを審査や承認の過程が含まれるわけではなく、受け取りの事実を強調する言葉である。

具体的に言えば、「受理」は申請や届け出に対して、公的機関がそれを正式に受け入れて処理するという意味合いがあるため、単に物や荷物を受け取る場合には適用されない。それに対して、「受領」は書類や金品を受け取る際の承諾を表し、配達物の受け取りや金銭の受け取りに対しても使用される。

したがって、「受理」は届け出が有効であるか否かを判断し、それを受け入れる行為を表すのに対し、「受領」は届け出や金銭、物品などを受け取るという行為自体を強調する言葉である。このように、「受理」と「受領」には使用される場面と意味の違いが見られる。

また、「受理」という二字漢語には、中国語においても語の構成要素が同じである同形語“受理”が存在する。以下でその意味を考察する。

《現代汉语词典》における中国語における“受理”の語義の解釈では二つに分けられている。一つは、“接受并办理”（受け取って処理する）という意味であり、例として“受理快件专递业务”（速達便の受付業務を行う）が挙げられる。もう一つは、“司法机关接受案件, 进行处理”（司法機関が案件を受け取り、処理する）という意味であり、“法院已受理此案”（裁判所がこの案件を受理した）といった文がその例である。

以下に、具体的な使用例を説明する。

(10) 法院受理了她的上诉。/裁判所は彼女の上告を受理した。

(11) 越权受理。/（警察・司法機関などが）自己の管轄を越えて訴訟事件などを受理する。

(12) 逾期不受理。/期限が過ぎれば受け付けない。

(13) 本店不能受理生鲜食品。/生鲜食品は本店では取り扱っておりません。

これらの例文から分かるように、中国語の“受理”は主に正式な手続きを伴う場合に使用される表現であり、司法機関や公的機関が何かを受け付けて処理するという意味で用いられることが多い。この点は、日本語の「受理」と同様である。

しかし、中国語の“受理”はさらに広い範囲で用いられることがある。ビジネスにおける書類の受け取りやサービスの受け付け、商品に関する取り扱いなども“受理”と表現される場合がある。このように、“受理”という語は、単に公式な文書や訴訟の受理にとどまらず、一般的な受け付けや処理の意味も含んでいる。

中国語の“受理”は、正式な申請書や訴状の受け取りに加えて、物品やサービスの受け付けに関する表現にも対応する。したがって、場合によっては日本語の「受理」のみならず、「受領」や「受け付ける」「扱う」といった動詞とも意味が重なることがある。配達物の受け取りや商品・サービスの受け付けなど、物理的な受け取り行為を表す「受領」に近い用法も含まれている。

このように、中国語の“受理”は、日本語の「受理」や「受領」の両方の意味を内包しており、使用範囲が広い表現である。

終わりに

本稿では、「受領」などを中心に、中国語と日本語における「受」を伴う二文字の漢字同形語の意味的特徴を考察した。日本語の「受領」は、公式な文書や物品の受け取りを意味し、日常生活でも比較的広く使用されるが、中国語の“受領”は、公式な文書や行政手続きに限定されることが多く、日常的な会話ではほとんど使われない。同時に、中国語では“領受”という語が、日常会話でよく用いられる。

これらの考察から、「受」を伴う日中漢字同形語において、同じ漢字表記であっても、文化的背景や社会的状況の違いにより、意味や使い方が異なることが明らかになった。また、同形語の多くが、日常会話では使われにくく、公式な文書や特定の場面で限定的に使用されることが確認できた。

参考文献

凌蓉, 「『受ける』与“受”对宾语限制的差异」, *The Knowledge of Japanese*, 2004, vol. 8, p. 22-23

朱薇娜, 「機能動詞「受ける」のヲ格名詞に対する考察」, *日本語教育研究*, 2013, vol. 4, p. 75-91

大野純子, 「中国語の受動文をめぐって」, *藝文研究*, 1993, vol. 164, p. 193-210

村木新次郎, 「迂言的なうけみ表現」, *国立国語研究所研究報告集*, 1983, vol. 4, p. 1-40

【日本語辞書】

伊地智善継, 『中国語辞典』, 白水社, 2002

北原保雄, 『日本国語大辞典 第二版』, 小学館, 2007

松村明, 『大辞林 第三版』, 三省堂, 2006

【中国語辞書】

中国社会科学院语言研究所词典编辑室, 《现代汉语词典(第七版)》, 商务印书馆, 2016

芥川龍之介の「江南游記」における「秦淮」と 「明孝陵」のイメージ像

李 依婷

はじめに

1921年3月下旬から7月上旬まで、芥川龍之介は「大阪毎日新聞」の海外特派員として約四ヶ月間にわたって、上海、南京、九江、漢口、長沙、洛陽、大同、天津などを遍歴した。その経験に基づいて書かれたものが『支那游記』（改造社、1925年11月）である。『支那游記』は「上海游記」、「江南游記」、「長江游記」、「北京日記抄」と「雑信一束」で構成された作品である。

芥川は「上海游記」（「大阪毎日新聞」、1921年8月17日）連載終了の半年後に同じ「大阪毎日新聞」で「江南游記」（「大阪毎日新聞」、1922年1月1日）の連載を始めた。「前置き」では街で中国人が話していることから、自分の中国旅行を思い出した。そして、連載の要望がきたとき「上海游記」の続編を書こうと考えたとある。それが「江南游記」である。

従来、「上海游記」に関する研究は多く行われているが、「江南游記」に対する研究は少ないのが現状である。そこで、本研究は、今後「江南游記」に対する研究が少しでも進展する一助となることを目指している。さらに、当時日本人作家の「秦淮」に関する認識も芥川の認識から探り、近代日本が中国に関する文学作品の視野を深く理解することに手助けとなる。

一、「秦淮」について

「江南游記」では多くの日本人作家に書かれた「江南」に関する作品に言及している。池田桃川の『江南の名勝史蹟』（日本堂書店、1921年3月）や谷崎潤一郎の『天鵲絨の夢』（天佑社、1920年）など。そのため、芥川が中国へ行く前に、「江南」についてのイメージはそれらの作品から捉えたものである。さらに、「江南游記」を執筆したときもこれらを参考にしながら回想して、書かれたものとも言える。

中国へ行く前に、谷崎潤一郎の、『秦淮の夜』（「中外」、1919年2月）を参考として「南京の基督」（「中央公論」、1920年7月）を書いた。内容から見ると、主人公の宋金花は、『秦淮の夜』の娼婦に当てはまり、日本人旅行者は語り手の「私」に当てはまる。

『秦淮の夜』と「南京の基督」の語り手は第一人称視点から、第三者視点に入れ替わったのがわかる。その設定以外、『秦淮の夜』と「南京の基督」は完全に別の作品である。

しかし、この二つの作品には確かな関連性がある。その一つは物語の舞台が両方とも「南京」となっている点にある。芥川の「南京」に対する概念は「秦淮」と一致するとみられる。（「南京」＝「秦淮」）

また、「江南游記」の最後、芥川は「南京」について、具体的に描いた。そこで、本論は芥川の「秦淮」についての認識について検討したい。さらに、「秦淮」から離れた「明孝陵」へ行く理由を探り、「明孝陵」での観光路線を確定したい。

一般的に、「秦淮」は「秦淮河」を指しているが、その流域はかなり長い。秦淮河には南北二つの源流がある。さらに、南京城の通済門外の九龍橋で、秦淮河は内秦淮河と外秦淮河に分流している。内秦淮河は本流である。つまり、広い意味上では、「秦淮」は「秦淮河」流域を指している。

そこで、作品の中にある「秦淮」という場所をもう少し絞る。

南京では「秦淮灯彩」という伝統的な灯籠がある。呉時代（222年～280年）から、もうすでにこの灯籠を使っていた。明時代（1368年～1644年）では、亡くなった将兵たちを慰霊するため、その灯籠を南京城内の秦淮川（内秦淮河）に流した。そこで、「秦淮」の地域は「内秦淮河」流域にまず絞られる。

さらに、「秦淮灯彩」を使って行った祭り「秦淮灯会」は梁時代（502年～557年）からもうすでにあつた。その「灯会」を行った場所は時代によって変わっているが、南京城内ということは変わっていない。が、「秦淮灯彩」に関する資料では中華民国の成立（1912年）から改革開放（1980年代）までは「夫子廟」で行っていた。

「民国初年（一九一二年）から現在に至るまでの約百年間で、「灯市」は、笪橋・評事街から夫子廟周辺へ移っていった。（中略）夫子廟は笪橋の南に位置し、（略）夫子廟辺りへ移動したことと意味していると思われる。（中略）一九二〇年代より後には、笪橋と評事街一帯の「灯市」はすでに衰退し、これらの地で生活し「秦淮灯彩」を生産していた職人たちも、夫子廟を販売活動の主要な場とするようになっていたことがわかる。」¹

そこで、「秦淮」は中華民国時代になって狭い意味上では、「夫子廟」周辺を指す。

「江南游記」の第二十七章「南京（上）」の最後も以下のように書いている。

「我々の車はそう云う内に、名高い秦淮のほとりへ出ていた。」²

第二十八章「南京（中）」は以下のように書いている。

「秦淮の夫子廟を過ぐ。」²

この二文からも芥川の認識では「秦淮」は「夫子廟」周辺の地域であるとみられる。

さらに、呉敬梓の『儒林外史』でも以下のように書いている。

「那秦淮河到了有月色的时候，越是夜色已深，更有那细吹细唱的船来。凄清委婉，动人心魄。两边河房里住家的女郎，穿了轻纱衣服，头上簪了茉莉花。一齐卷起湘帘，凭栏静听。所以灯船鼓声一响，两边卷帘开窗。河道里焚的龙涎，沉、速香雾一齐喷出来，和河里月色灯光合成一片。望着如闻仙人，瑶宫仙女。还有那十六楼官妓，新妆炫服。招接四方旅客。真乃朝朝寒食，夜夜元宵。」³

「あの秦淮河に月光を映り、夜が深まっていくとき、細かく吹く風に乗って、細やかな歌声を響かせる船がやって来る。その歌声は清らかで優美で、心を揺さぶるもの。河岸の両側に住む女性たちは、薄い絹の服を着て、髪にはジャスミンの花を飾っている。皆一斉に湘帘を巻き上げ、欄干に寄りかかって静かに（その歌声を）聞いている。灯彩を飾っている船の鼓の音が鳴ると、両側の窓が開かれ、巻き上げられた帘が風に揺れる。河の中では龍涎香が焚かれ、その重く、速やかな香りが一緒に広がり、月光と灯火と一体となって溶け合っていく。遠くから見ると、まるで仙人や瑶宮の仙女たちが現れたかのようだ。そして、十六階の官妓たちは、新しい化粧を施し、華やかな衣装を身に着けている。四方からの旅人を迎えている。まさに、毎朝寒食、毎晩元宵のように楽しんでいる景色である。」（論者訳）

「夫子廟」周辺の妓院のにぎやかさを描いた。明時代からすでに「秦淮河」周辺では妓院の商売がかなり発展していた。

資料によれば、1920年から1924年まで、上海、南京、蘇州、広州、天津などは「廃娼運動」を始めた。しかし、南京が実際に廃娼制策を作ったのはすでに1928年の南京政府成立になってからなのだ。妓院の商売がだんだんできなくなったが、残された妓院は「夫子廟」周辺で商売をしていた。⁴

「南京の基督」と「秦淮の夜」の主人公としての妓女は「夫子廟」周辺の妓院で商売している女性である。『秦淮の夜』の「秦淮」は「夫子廟」周辺の地域であることを再確認できる。「南京の基督」の場面設定と主人公設定は「秦淮の夜」から取ったものであるから、芥川の認識では「秦淮」は「夫子廟」周辺の地域であることも再確認できる。

そこで、芥川が作品に書いた「秦淮」とは「夫子廟」周辺の地域であることが確定できる。それは、芥川が実際に南京で旅行した経路とほぼ一緒となる。

芥川は南京での観光時間は 1921 年 5 月 12 日から 14 日まで、わずか二泊三日しかなかった。芥川は「江南貢院」、「秦淮河」、「夫子廟」と「明孝陵」などの歴史的な名勝を回った。

「貢院の続いている往来へ出た。」²

「秦淮の夫子廟を過ぐ。時既に薄暮なれば、門を鎖して人を入れず。」²

「橋上より眺むれば、秦淮は平凡なる溝川なり。」²

「孝陵は長髪賊の乱の為に、大抵の殿樓を焼かれたから、何処を見ても草ばかりである。」²

「江南游記」の第二十七章「南京（上）」、第二十八章「南京（中）」は以上の四つの文が書かれている。そこで、芥川は確かにそれら四つの名勝に足を運んだことがわかる。

地図によれば、「江南貢院」、「秦淮河」、「夫子廟」の三ヶ所はすべて現在の「夫子廟地区」にある。お互いつながっている。これと文章に書かれた内容から見ると、芥川もほぼ半日、連続でこの三ヶ所を見回った。

芥川が「江南游記」に書いた南京で観光した場所の名称と現実の場所を対応すれば、以下の場所になる。

「秦淮の夫子廟を過ぐ。時既に薄暮なれば、門を鎖して人を入れず。」²

ここでの門は現在の「中華門」である。

「夫子廟」を通して、秦淮河の河岸に沿って、ずっと歩くと、中華門が見える。中華門は、南京城の南面に位置する城門である。南京城は 1360 年から 1386 年にかけて明の初代皇帝朱元璋により建設された城である。明時代には雨花台の位置する聚宝山に由来する聚宝門と称されたが、1931 年に現在の中華門に改名された。そこで、芥川が行ったときはまだ「聚宝門」と呼ばれていた。（以下はすべて「聚宝門」と呼ぶ）

「橋上より眺むれば、秦淮は平凡なる溝川なり。川幅は本所の豎川位。兩岸に櫛比する人家は、料理屋芸者屋の類なりと云う。人家の空に新樹の梢あり。人なき画舫三四、暮靄の中には繋がれしも見ゆ。」²

ここでの「橋」は「武定橋」と仮定できる。

「夫子廟」から「聚宝門」まで、いくつの橋がある。まず、「聚宝門」に一番近い橋は「長干橋」である。この橋は南唐時代（937 年～975 年）に建てられた橋である。明時代に「聚宝橋」、中華民国時代は「長干橋」に改名された。（以下はすべて「長干橋」と呼ぶ）芥川は秦淮の景色を書き留めていたとき、「聚宝門」を描いたあと、すぐ橋のことを言い出した。そのため、「長干橋」は芥川が述べた「橋」と考えるのは自然である。しかし、芥川は橋の上から「料理屋」と「芸者

屋」を見た。その景色は、前文で検討したように、「夫子廟地区」でみられる景色である。そのため、「聚宝門」に近い（前にある）「長干橋」からは「夫子廟地区」の景色が見えないので、この橋ではない。

そこで、「聚宝門」から「夫子廟」まで、「秦淮河」に沿って、遡って、「朱雀橋」、「武定橋」、「文徳橋」と「文源橋」の四つ橋がある。

「朱雀橋」は六朝時代（222 年～589 年）から、すでに重要な大通りをつなぐ橋となった。さらに、「夫子廟地区」から少し離れることから、芥川が立ったのは「朱雀橋」でもない。

「武定橋」は南宋淳熙年間（1174 年～1189 年）に建てられた橋である。明・清時代から中華民国時代まで、この橋の両岸から、「夫子廟」までは妓院が多くあった。そのため、芥川が立ったのは「武定橋」と示唆される。

「文徳橋」は明歴十三年（1585 年）に建てられた橋である。吳敬梓はこの橋に立って、詩を作ったのだ。しかし、1904 年の端午節、多くの人が橋の上に立って、龍舟の試合を見ていた。「文徳橋」が木製であるため、そんなに多くの人が上にいることを支えることができない。それで崩れた。そのため、芥川が立ったのは「文徳橋」でもない。

「文源橋」は明洪武二十六年（1393 年）に建てられた橋である。北岸は清時代では「儒学科考」の重要な場所である。そのため、芥川が立ったのは「文源橋」でもない。

そこで、芥川が文章に書いた「橋」とは「武定橋」とみられる。

二．「明孝陵」について

一方、「明孝陵」はそれらとかなり離れた場所にある。文章の中では以下のように書かれている。

「一時間の後、我々二人は、鐘山の陵に至るべき、堂々たる石橋を渡っていた。」²

芥川と友人は「明孝陵」に行った。

そこで、まず、芥川と友人の出発地点を確定する。第二十八章「南京（中）」では以下のように書かれている。

「飯館を出ずれば既に夜なり。家々の電燈の光、妓の人力車に駕せるを照らす。宛然代地の河岸を行くが如し。されど一の姝麗を見ず。私に疑う、『秦淮画舫録』中の美人、幾人か懸け値のなきものある。もし夫『桃花扇伝奇』の香君に至っては、独り秦淮の妓家と云わず、四百余州を遍歴するも、恐らくは一人もあらざるべし。……」²

「飯館」から出てすぐ妓女の人力車が見える。しかし、不思議なのはもともと妓女も見えたはずなのに、今はなぜか見当たらないという光景になった。

つまり、「飯館」は妓院に近いところにある。もしくは、妓院に囲まれたのである。芥川と友人は「夫子廟地区」で食事したということがわかる。

同じ、第二十八章「南京（中）」では以下のように書かれている。

「今日は私が御案内しましょう。明の孝陵から莫愁湖の方へ。」²

「そうですか。じゃ早速出かけましょう。」²

「私は名所を見たいよりも、胃の中の麴包を消化したさに、早速外套へ手を通した。」²

この文から、食事のすぐ後に芥川と友人が「明孝陵」に向かっていたことがわかる。そこで、芥川と友人は「明孝陵」へ行くときの出発地点は「夫子廟地区」ともわかる。

芥川と友人は一時間かけて「明孝陵」に行った。地図で検索すれば、一時間かけて「夫子廟地区」から「明孝陵」までいける方法は歩くだけ。芥川と友人は歩いて「明孝陵」まで行ったことがわかる。これと文章の中で食べたパンを消化するために出かけたことも対応できる。

次に、芥川と友人が「明孝陵」で観光したルートを探る。第二十八章「南京（中）」では以下のように書かれている。

「一時間の後、我々二人は、鐘山の陵に至るべき、堂々たる石橋を渡っていた。孝陵は長髪賊の乱の為に、大抵の殿楼を焼かれたから、何処を見ても草ばかりである。その離々とした草の中に、大きい石の象が立っていたり、門の礎が残っていたり（中略）陵その物——かどうか知らないが、兎に角最後に聳えているのは、無暗に高い石の壁だった。その壁のまん中に、ざっと自動車でも通れそうな、爪先上りのトンネルがある。このトンネルの高ささえも、壁全体の高さから見れば、やっと四分の一位しかない。（中略）そのトンネルを通り抜けた後、少時石段を登ったら、とうとう陵の一番上へ出た。其処には屋根も柱もない、赤壁だけがぐるりと残っている。あたりに生え伸びた若木や草、壁一面の落書の跡、——荒廃はやはり変わりが無い。しかし、この陵上に立ってみると、粉々と飛び交う燕の下に、さっき渡った石橋は勿論、正殿、郭門、薄白い陵道、——その他日の光に照った山河が、遥に青々と広がっている。（中略）「御覧なさい。今日は西門外に、高跳動があるものですから、見物人が大分多いようです。」（略）」²

この一段の文は芥川と友人が「明孝陵」を回るルートを描写している。まず、鐘山の陵について、石橋を渡った。そのあとすぐ殿楼の跡と、石の象を見た。「石

象」が「殿楼」からかなり遠いところにある。そこで、地図から探すと、唯一「石象」が見えるルートにある橋は現在の「梅花谷（南門）」にある橋。そこで、芥川はその橋を渡ったとわかる。（付録）

そのあと、「石象」を見てから、中に進んで、「正殿」を見たのが実際のルートである。

「正殿」とは「享殿」。「享殿」は清咸丰三年（1853 年）の太平天国によって焼かれた。これは芥川が書いた「長髪賊の乱の為」に焼かれたことに当てはまる。

「トンネル」は「明楼」の下の部分にあるトンネルを指している。「明楼」の下の部分には斜面トンネルがある。通るとすぐ「宝城」（朱元璋と皇后馬氏が合葬された地宮）が見える。

「郭門」とは「文武方門」。「明孝陵」の外囲いの門となる。

「薄白い陵道」とは「梅花谷（南門）」にある橋から「文武方門」までの道である。「石象」もちょうどこの「陵道」にある。

「西門」とは「大金門」。「明孝陵道」の南端にある。

そこで芥川の大体の「明孝陵」、大きく言えば「鐘山」でのルートは、「梅花谷（南門）」にある橋を渡って、「梅花谷」の南門から入って、「石象」が見える「陵道」に沿って「文武方門」まで歩き。そのあと、「享殿」を通過して、「明楼」に着いた。「明楼」の下部分にあるトンネルに入って、階段を上って、「宝城」までたどり着いた。そこから、遠いところにある「大金門」を眺めたとわかる。このルートはかなり長い道である。芥川と友人がわざわざ「明孝陵」を回った何らかの理由があると考えられる。

三．「秦淮」と「明孝陵」の異なるイメージ

最後に、芥川がわざわざ「夫子廟地区」から遠い「明孝陵」に行って、時間をかけてでも回った理由を探る。

謝銀萍は「秦淮河」に対してマイナス的な表現しかない芥川は、「明孝陵」に対して、より明るいイメージを作ったと述べていた。⁵

芥川が「秦淮河」に対してマイナス的な表現をしたのは、河自体だけではない。その周囲にいる人々のことを指していると言える。「平凡なる溝川」、「俗臭紛紛たる柳橋」などの表現で「秦淮河」と「夫子廟地区」を描いた。これと、「江南游記」の前置きで言及した『留東外史』と繋がる。

『留東外史』は動乱の時代において遊びに興じ、進取の気性を持たず、金銭や女性に溺れる浪費家たちを批判し、亡命者たちの漂泊や剣に挑む姿も描写されていた作品である。

芥川の「上海游記」では、彼は上海で李人傑との会話から、中国の若者は中国を変えようとしていることに気づいたのを表している。

しかし、南京の「秦淮」で、妓院の繁華を見た。この動乱の時期、娯楽を楽しむ人々に対して嫌悪を感じた。そこから、「秦淮」の妓院で娯楽を楽しむ人は『留東外史』の「金銭や女性に溺れる浪費家たち」に、李人傑をはじめとした「若き新人」たちは「亡命者たち」に対応する。

そこで、芥川が「秦淮河」に対してマイナスイメージ的な表現をしたことはそれら動乱の時代なのに娯楽しか考えていない人々に対する批判が示されている。

一方、芥川は「明孝陵」に対して、明るい風景を描いた。物事を冷静に捉えていることから、「太平天国の乱」の結果についても、「歴史に残された結果だ」という平穏な気持ちを持つことが見られる。

「太平天国の乱」とは、中国の歴史において初めて南方で興起し、全中国に波及した農民戦争である。この農民戦争は多くの遺跡を破壊した。当時はかなり動乱の時代であり、残酷なこともあった。それでも、芥川が見たのは鎮静化され、平穏になり廃墟になった「明孝陵」であった。

そこから、芥川は「太平天国の乱」と現在の中国が直面している状況を連想した。さらに上海で会話した革命家のことも連想した。それらの中国の革命家が今行っている行為は、いつか未来の中国に影響を与え、新たな平和な国になれることを確信していた。

冷静にこの風景を見ているのは、上海で李人傑との会話を通して、芥川がこの国の未来を見ているからである。太平天国のような結果にはならず、中国は変わると信じていた。その未来を穏やかな風景の描写を通して描いた。

「その他日の光に照った山河が、遙に青々と広がっている。」²

さらに、『愛読書の印象』⁶にも「子供の時の愛読書は『西遊記』が第一である。これ等は今日でも僕の愛読書である。」とあるこの一文から芥川は『西遊記』をよく知っていることがわかる。

「明孝陵」は明時代の重要な文化財産。明時代は多くの文学作品も誕生していた。「西遊記」は明時代の作品である。そこで、「芥川が明時代の文学作品を愛していたことがわかる。

同時に「明孝陵」は中国の歴史を保つものである。「太平天国の乱」で破壊されたとしても、中国内部の社会への反抗の証でもある。

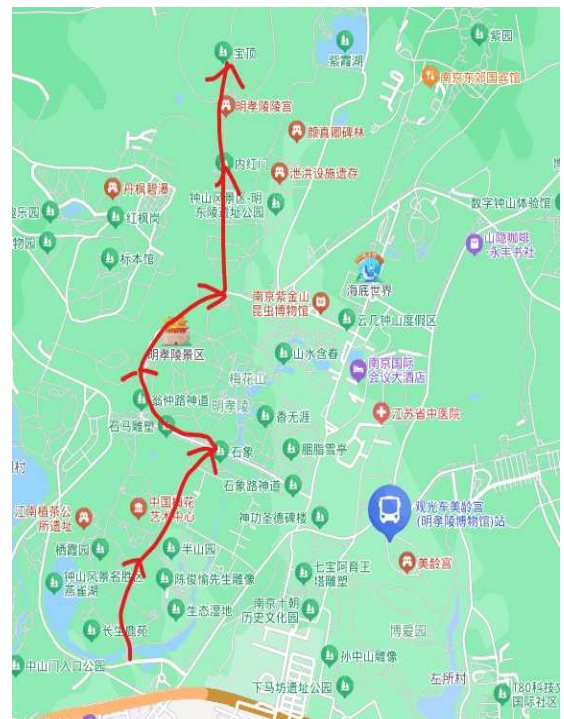
そこから、芥川が「明孝陵」に対して、上海より親近感を持ったことが推察できる。上海の闇に対して、芥川は「明孝陵」の歴史の重さをより伝えたかったのではないか。そのため、「明孝陵」が廃墟になっても、明るく描いていた。

したがって、芥川が「秦淮」と比べて、「明孝陵」により明るいイメージを与えたのは、「明孝陵」は中国人が社会への反抗の歴史を語っている場所だからだ。

参考文献

1. 劉 俊哲、植田 憲、宮崎 清「中国・南京における伝統的灯籠「秦淮灯彩」の成立と発展」(日本デザイン学会『デザイン学研究 59 (3)、2012 年 6 月 26 日)
2. 芥川龍之介『上海游記・江南游記』(講談社、2021 年 8 月 23 日)
3. 吳 敬梓『儒林外史』(人民文學出版社、1975 年 8 月)
4. 呂 振「南京国民政府时期娼妓治理问题研究」(山東大学、2013 年 5 月 25 日)
5. 謝 銀萍「南京から見る芥川龍之介の中国観—「江南游記」を中心に—」(『ICU 比較文化 第 50 巻』、2017 年 9 月 30 日)
6. 芥川 龍之介『芥川龍之介全集 第六巻』(岩波書店、1996 年 4 月 8 日)

付録



引用

- ①<https://www.abaxjp.com/china1504-01nankin/china1504-01nankin.html>
(2024 年 12 月 18 日閲覧)
- ②钟山风景名胜区ホームページ地図 <https://ditu.city8.com/nanjing/scope/8aif4e7a1hgrb8fde7?map> (2024 年 12 月 18 日閲覧)

曹炳生・劉佳編著『張謇癸卯東遊日記校注』を読む

王 昊天

はじめに

中国近代の著名な実業家である張謇氏は、『癸卯東遊日記』において、1903年、日本で約2か月間行った視察の見聞や中日両国社会の比較評価などを記録している。この日記は、現在では張謇や清末地方エリート層に関わる研究において重要な文献となっている。1903年末、翰墨林印書局によって初めて出版されて以来、単行書として、あるいは文集に収録される形で何度も再版されてきたが、これらの異なる版の中で、校注本はいまだに一冊もない。

曹炳生・劉佳編著『張謇癸卯東遊日記校注』は、2023年10月、中国文史出版社より出版された。本書は、張謇の日記に対して初めて詳細な校注が施されており、日記の執筆背景についての詳しい補足や、日記に登場する人名に関する解説など、多岐にわたる内容が加えられている。これにより、全体の分量は44万字を超え、原著の十数倍に及ぶ充実した内容となっている。

内容構成と校注の特色

本書は、南京大学教授・馬俊亜氏が執筆した序文を除き、主に以下の4つの部分から構成されている。導読(読書案内をする)、校注説明、『癸卯東遊日記』校注、付録。また、文末には張謇の手書き原稿の影印本も追加されており、全体の構成は論理的で一貫性が保たれている。

導読(読書案内をする)部分は二つの論考から構成されている。一つ目は「張謇的生平」(張謇の生涯)では、張謇の生涯を体系的に考察し、その業績をまとめたものである。この文章は、張謇という歴史的人物を読者がより深く理解できるよう工夫されており、著者の独自の視点を加えることで新たな解釈を提示した。二つ目は「向張謇先生学调查研究」(張謇先生に学ぶ调查研究)と題し、張謇の日本視察および『癸卯東遊日記』の執筆背景に焦点を当てた調査報告である。この文章は、張謇と同時期、日本を考察し

た清末の重臣である那桐の行動を比較するという独創的な視点を取り入れており、張謇の事業の持つ独自の価値とその時代的意義が浮き彫りになる。

校注説明の部分では、既存の各版『癸卯東遊日記』に関する比較的詳細な分析と解釈が行われている。その中で、本日記には複数の版が存在するものの、これまでに校注本は一冊も刊行されていない、と指摘されている。また、各版には明らかな誤記や誤植が多く見られるだけでなく、人物、機関名、典故に関する注釈も不足しており、読者の理解には多くの障害をもたらしていることが強調されている。こうした問題を背景に、本書の出版が持つ学術的意義と実用的価値が明確に示されている。

筆者は本書の校注作業は非常に優れているものと評価する。

まず、日記原文の旧暦に関する補足として、すべての日付の後に新暦を括弧内に丁寧に併記している。次に、原文の後に「校勘」と「注釈」に分けた校注を設けている。「校勘」では、張謇の日記原稿と他版の異同とその原因を詳細に説明している。「注釈」では、本文中の人名、地名、典故、出来事などについて徹底的に考証を行っている。内容は原稿の数倍にも及び、本書の校注作業の膨大な作業量を示している。

特筆すべきは、本書の注釈内容が、従来の日記校注で見過ごされがちな点に着目し、第三者の視点から同一の出来事に対する新たな観察・視点から論点を提示している。張謇が日本を視察した際の同業者である蔣黼も『東遊日記』を執筆しており、本書の「注釈」においてその内容を大量に引用し、新たな視点から張謇の日記を補足・説明している。また、附録には蔣黼の『東遊日記』全文を転載し、読者が直接確認できるよう配慮されている。この方法は、テキスト解釈の視野を広げるのだけでなく、張謇の東遊期間における歴史的詳細を立体的に理解するための視点と考えられる。

不足点の検討

本書は近年の張謇研究における希少な佳作と評価する一方、幾つかの不足点も見られる。本書では何度も登場する人物に対して注釈が繰り返される一方で、初めて登場する人物については注釈が付されていない場合があり、稀な見落としがある。また、一部の人物については、注釈が二回目の登場時に補足される形になっており、この点が校注の一貫性と完全性に影

響を与え、読者の読みやすさをある程度損ねる場合があると思われる。さらに、原文中のすべての地名には注釈が付されているものの、張謇の東遊期間中の視察ルートについては別途説明が添えられていない。そのため、日本の地理に詳しくない中国人読者にとって、これらの地名や出来事を把握することが難しいと考えられる。上記の問題点は、編者の視点や紙幅の制約に起因する可能性があるが、同時に張謇に関する研究をさらに深化させるための新たな方向性や余地を示している。

終わりに

近年、張謇研究は学界において注目を集める分野へと成長している。しかし、その研究の焦点は主として新史料の発見や既存史料に対する「時代のニーズに応じた」新たな解釈に集中しており、古い史料の研究や本格的な整理作業は相対的に停滞している状況にあると筆者は見ている。こうした中で、本書の刊行は、間違いなく伝統的史料学に新たな活力をもたらす「起爆剤」となり、張謇研究のさらなる発展に向けた新たな地平を切り開いたと言える。



執筆者紹介

- | | |
|--------|--|
| 趙 鴻 | 上海外国語大学日本文化経済学院 |
| 徐 庶 | 京都外国語大学大学院 博士前期課程 異言語・文化専攻（実践言語教育コース）
日本語教育 |
| 八巻 マリ子 | 京都外国語大学大学院 博士前期課程 異言語・文化専攻（実践言語教育コース）
日本語教育 |
| 袁 梓鑫 | 京都外国語大学大学院 博士前期課程 異言語・文化専攻（言語文化コース）
東アジア地域 |
| 李 琦 | 京都外国語大学大学院 博士前期課程 異言語・文化専攻（言語文化コース）
東アジア地域 |
| 崔 子銘 | 京都外国語大学大学院 博士後期課程 異言語・文化専攻 言語文化領域 |
| 李 依婷 | 京都外国語大学大学院 博士前期課程 異言語・文化専攻（言語文化コース）
東アジア地域 |
| 王 昊天 | 京都外国語大学大学院 博士後期課程 異言語・文化専攻 言語文化領域 |



編集代表

由井紀久子

(京都外国語大学大学院 外国語学研究科長 日本語学科教授)

編集委員会

編集委員長

崔 子銘

(外国語大学大学院 博士後期課程 異言語・文化専攻 言語文化領域)

編集委員

杉山 仁

(京都外国語大学大学院 博士前期課程 異言語・文化専攻 (実践言語教育コース) 日本語教育)



編集後記

2007年の創刊以来、大学院紀要『言語と文化』は今年で第19号目を迎えました。これもひとえに、本紀要に関心を寄せてくださる関係者の皆さまのご協力のおかげであり、心より感謝申し上げます。

本号の編集にあたり、新たに導入した編集プロセスの調整や、いくつかの課題に直面する場面もありましたが、由井紀久子先生をはじめとする指導教員の皆さまのご助言、そして関係者の皆さまの温かい支えにより、無事に電子化し公開へとつなげることができました。この場をお借りして、改めて深く感謝申し上げます。

最後に、本紀要『言語と文化』が、多くの方にご覧いただき、言語や文化の研究交流の場として活用されることを願っております。

(編集委員長 崔 子銘)

京都外国語大学『言語と文化』第 19 号

2025 年 3 月

編 集 京都外国語大学大学院外国語学研究科
〒615-8558 京都市右京区西院笠目町 6